

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

平成 24 年度～平成 28 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

1 学校法人名 愛知大学 2 大学名 愛知大学

3 研究組織名 愛知大学東亜同文書院大学記念センター

4 プロジェクト所在地 愛知県豊橋市町畑町1-1

5 研究プロジェクト名 東亜同文書院を軸とした近代日中関係史の新たな構築

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
馬場 毅	愛知大学	名誉教授

8 プロジェクト参加研究者数 33 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

所属・職	研究者名	研究プロジェクトにおける研究課題	当該研究課題の成果が研究プロジェクトに果たす役割
【学内】			
愛知大学名誉教授	藤田 佳久	書院の中国研究および書院卒業生研究 (⑤書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業に関する研究グループ)	各研究課題の推進と相互関連性、地域研究の先駆性と東アジア地域の復元、書院生の近代中国への貢献
愛知大学名誉教授	馬場 毅	東亜同文会・書院が果たした近代日中関係史 (①近代日中関係の再検討グループ)	東亜同文会・書院の中国認識と時代背景の解明、各研究課題の構造と相互関連性
現代中国学部・教授	三好 章	書院の教育システムの研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	書院の教育機関の特性を解明
現代中国学部・教授	松岡 正子	書院の中国地域の研究 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グループ)	辺境の「大調査旅行」記録の評価
現代中国学部・教授	劉 柏林	書院の中国地域研究評価 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グループ)	「大調査旅行」研究と中国への紹介
現代中国学部・教授	黄 英哲	書院と東亜同文会との連関研究 (①近代日中関係の再検討グループ)	近代日中関係史研究

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

国際コミュニケーション学部・教授	加納 寛	東南アジア地域研究 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グループ)	「大調査旅行」研究における東南アジア研究
地域政策学部・教授	阿部 聖	中国の近代化研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	書院刊行成果の評価
文学部・教授	神谷 智	創成期の愛知大学史研究 (④書院から愛知大学への接合性の研究グループ)	書院から愛知大学への継承研究
短期大学部・教授	ローラ・リー・クサカ	国際英語の研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	書院刊行成果の英語訳
東亜同文書院大学記念センター	武井 義和	書院が果たした近代日中関係史 (①近代日中関係の再検討グループ)	近代日中関係史の再評価
東亜同文書院大学記念センター	佃 隆一郎	創成期の愛知大学史研究 (④書院から愛知大学への接合性の研究グループ)	書院から愛知大学への継承研究
東亜同文書院大学記念センター	広中 一成	創成期の愛知大学史研究 (④書院から愛知大学への接合性の研究グループ)	書院から愛知大学への継承研究
東亜同文書院大学記念センター	石田 卓生	書院システムの研究 (⑤書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業に関する研究グループ)	書院卒業生研究
中国内蒙古大学経済管理学院・講師	暁 敏	中国地域の研究 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グループ)	「大調査旅行」記録による地域復元
愛知大学非常勤講師	高木 秀和	中国地域の研究 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グループ)	「大調査旅行」記録による地域復元
【学外】			
アメリカ・ジョージア州立大学・教授	D・レイノルズ	書院の教育システム研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	書院教育システムの国際的評価
フランス学士院会員	B・ブルギエール	書院の教育システムと中国研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	書院教育システムの国際的評価
アメリカ・ミシガン大学・名誉学芸司書 (Curator Emeritus The University of Michigan Library)	ニキ・ケンジ	アメリカにおける書院関係文献調査 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	アメリカにおける書院研究
中国・上海交通大学・教授	葉 敦平	書院と上海交通大学との研究 (④書院から愛知大学への接合性の研究グループ)	両校の关系的発展の研究
中国・上海交通大学・教授	毛 杏雲	書院・愛知大学卒業生の日中間交流 (⑤書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業に関する研究グループ)	上海交通大学との交流研究
中国・上海交通大学・副教授	盛 懿	書院教育システムの研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究グループ)	書院と上海交通大学の关系的発展の研究

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

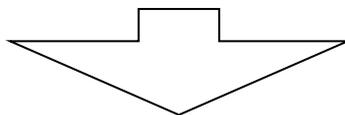
中国・上海交通大学・校史研究室助理 研究員	欧 七斤	書院教育システムの研究 (③書院の教育と中国研究システムの研究 グループ)	中国における書院研究とその評 価
中国・地理研究所	宋 献方	中国・東北地方研究 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グル ープ)	「大調査旅行」記録による地域復 元
慶應義塾大学・福澤 研究センター・元所長	坂井 達朗	愛知大学創設期林学長の研究 (④書院から愛知大学への接合性の研究グ ループ)	愛知大学創設期の研究
慶應義塾大学・福澤 研究センター・教授	西澤 直子	愛知大学創設期林学長の研究 (④書院から愛知大学への接合性の研究グ ループ)	愛知大学創設期の研究
一橋大学経済学研 究科・特任教授 一橋大学・名誉教授	江夏 由樹	書院から一橋大学への編入学生 の研究 (⑤書院および初期愛知大学卒業生の国際 的就業に関する研究グループ)	書院卒業生の研究
國學院大学・講師	栗田 尚弥	書院と東亜同文会との連関研究 (①近代日中関係の再検討グループ)	近代日中関係史研究
台湾・中央研究院台 湾史研究所	許 雪姫	台湾における書院卒業生の研究 (⑤書院および初期愛知大学卒業生の国際 的就業に関する研究グループ)	書院卒業生の研究
武漢大学	馮 天瑜	書院の「大調査旅行」研究 (②「大旅行調査」からみる近代中国像グル ープ)	書院の近代中国研究
財団法人霞山会・文 化事業部 研究員	堀田 幸裕	東亜同文会の朝鮮における学校 経営 (①近代日中関係の再検討グループ)	近代日中朝関係史研究

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 年 月 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
現代中国学部・教授	愛知大学・名誉教授 (東亜同文書院大学記念センター 客員研究員)	馬場 毅	研究代表者
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
国際コミュニケーション学 部・准教授	国際コミュニケーション学部・教授	加納 寛	「大調査旅行」研究におけ る東南アジア研究

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
愛知大学三遠南信地域 連携センター・PD	中国内蒙古大学経済管理学院・ 講師	暁 敏	「大調査旅行」記録による 地域復元

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
アメリカ・ミシガン大学・ライブラリアン	アメリカ・ミシガン大学・名誉学芸司書 (Curator Emeritus The University of Michigan Library)	ニキ・ケンジ	アメリカにおける書院研究

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
一橋大学経済学研究科・特任教授 一橋大学・名誉教授	帝京大学経済学部・教授、一橋大学・名誉教授	江夏 由樹	書院卒業生の研究

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	愛知大学文学部・准教授	加島 大輔	書院から愛知大学への継承研究

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	東亜同文書院大学記念センター・PD	野口 武	近代日中関係の再検討

11 研究の概要

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

<目的と意義>

本研究プロジェクトの目的は、1901年に上海に設立され、清末から民国期にかけての20世紀前半の約半世紀にわたり存続した、日本の高等教育機関である東亜同文書院(のち大学、以下「書院」)が果たした近代日中関係上の歴史的役割を実証的に解明するところにある。

東亜同文書院は20世紀前半期の日中関係の揺れた時期に中国に存在したにもかかわらず、戦後の東西冷戦下において、スパイ学校などとするイデオロギー的な偏見により、実証研究は遅れた。それが変化ようになったのは1989年のベルリンの壁の崩壊後であり、あらためて中国語教育の先進性、大調査旅行による中国および東南アジアへ広がる世界で先駆的ともいえる地域研究、卒業生の国際感覚をもった幅広い活躍など、外地に設立した高等教育機関としての東亜同文書院システムと称すべき先進性が浮かび上がってきた。その基盤には書院を支えた経営母体の東亜同文会が、初代会長近衛篤磨以来日中間の教育・文化交流を目指したこと、荒尾精による日中間の貿易実務者を養成しようとする、ビジネススクールとしての書院の性格があったこととも関連している。それらをより実証的に解明することにより、書院の教育・研究両システムの先駆性を明らかにし、それがとりわけ日中関係史の中で果たした書院の役割を実証的に検討する点に研究意義がある。さらに、今日および今後の日中関係をその歴史性をふまえた国際的視点から展望できる可能性を検討できるところにも、この研究の意義がある。

<計画>

まず、全体としては5つの研究テーマについてそれぞれ5つのグループを設け、初めにそのテーマ、グループと相互関連性の確認を行ったあと、それぞれ5ヶ年の研究計画を確認した。その際事業としては、毎年順次研究テーマ毎のシンポジウムを開催し、テーマに沿った発表とそれに対する反応を研究へフィードバックさせるとともに、他の研究テーマとの関連性の検討も行ない、最終的に書院システムの解明と、それがもたらした近代日中関係に果たした役割の総括を行なうこととした。

5つのグループの具体的なテーマは、まず①グループが近代日中関係の再検討、②グループが「大調査旅行」からみる近代中国像、③グループが書院の教育と中国研究システム、④グループが書院から愛知大学への接合性、⑤グループが書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業とし、1年目は①グループ、2

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

年目は①グループと②グループの国際シンポジウムを開催、3年目は③グループの国際シンポジウムを2014年12月に開催する。4年目は④グループ、5年目は⑤グループがそれぞれ国際シンポジウムの開催をし、5年目には本研究プロジェクトの総括を行なう。また、毎年、那覇、長崎、岐阜、広島、松本、名古屋の順に各市で書院と愛知大学関連の、研究成果もふまえた啓蒙的展示会・講演会を行ない、成果を公開する。あわせて、1年目に収蔵史資料庫(耐火設備)の増設および当該建物の一部改修を計画した。それらのシンポジウムやその他の研究会の成果と、各グループの個別メンバーの研究等の成果は毎年年报として『同文書院記念報』を刊行し、全国の関係機関、組織と交換して、希望者への配布も行なう。

(2) 研究組織

研究代表者のもと、研究組織は5つの研究グループ(①近代日中関係の再検討、②「大調査旅行」からみる近代中国像、③書院の教育と中国研究システム、④書院から愛知大学への接合性、⑤書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業)に編成し、各グループの代表がそれぞれのグループを統括し、責任者となる。また、各グループの代表者と若干のメンバーおよび事務局が中心となり、全体およびグループ間の関連性、調整などの運営方法と方針を協議する。なお、各グループメンバーは学内外の研究者が中心となり、P.D.や若手研究者を含めた研究体制とし、サポートする事務局は、豊橋研究支援課が担当している。

(3) 研究施設・設備等

本研究プロジェクトは、本学に付置されている愛知大学東亜同文書院大学記念センターの施設をベースとして展開されており、卒業生から寄贈された1万点に及ぶ関連書籍、資料、収蔵品を活用でき、本学図書館所蔵の25万冊余りの中国関係図書・資料も活用している。また、35名収容の講義室もあり、研究会や学習会などの開催も可能である。また常設展示6室のほか、特別展示室、収蔵史資料庫、研究室に所蔵している史資料なども大いに活用できる。センター(記念館)の建物は100年余前の木造建築であるがなお堅牢であり、外壁の修復も行ったことにより、博物館相当施設ともいえる状態になった。設備はパソコン、コピー、プリンターなど常用機器も利用できる。従来、大学記念館木造室に保管していた収蔵物を、別棟のコンクリート建物内に史資料収蔵庫を設けることにより整備をすすめる計画を実現した。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

・準備期(1年目)

当プロジェクトの採択が決定し、提出していた構想調書にしたがい、5つの研究グループの編成と、事業計画の検討をすすめた。また、5つの研究グループは前述したとおりで、全体として33名、うち10名が外国人研究者である。各研究グループは平均6名から構成され、それぞれ研究事業計画を示すとともに、毎年研究グループがシンポジウムを開催すること、およびその担当年次について決定した。あわせて、研究施設の整備・改修を初年度に実施し、予定通り達成し、完成した。

以上をふまえ、研究面では全体のテーマをカバーする①グループ「近代日中関係の再検討」グループにより、台湾の中央研究院台湾史研究所の協力を得て、*近代台湾と東亜同文書院に関するシンポジウムを開催、また②グループ「大調査旅行からみる近代中国像」の一環として、中国人研究者による*「東亜同文書院の中国調査について」の研究会も実施し、準備期としての幕明けを行った。

書院の経営母体である東亜同文会は日本人向けの書院とともに中国人留学生のために東京同文書院を経営し、両者は車の両輪であった。文化的に台湾と日本の二重の要素を持っている台湾の学生は日本人として書院に入学した。前述した研究を通して、今まで不明であった入学してきた台湾人学生の社会階層、卒業後の功績、さらに戦後台湾に於ける活動などが明らかになった。一方、東京同文書院についても、カリキュラム、教員集団、さらに入学してきた学生はエリート層が多く、帰国後中国政府の高官になったものもあり、中国の近代化で重要な役割を果たしたことが明らかになった。またベトナム人潘佩珠(ファンボイチャウ)の起こした有名な東遊運動によって、派遣されてきた留学生の大部分を引き受け教育した東京同文書院のベトナム人留学生との関わりも明らかになった。これらも東亜同文会・書院関係者のアジア主義の発露と考えられる。なお、これらの成果は平成13年に出版された*『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわり

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

をめぐって』所収の論文として公表されている。

また、当プロジェクトの成果発表として、1年目の終わりに沖縄県那覇市で*沖縄展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」を一般公開にて開催した。*書院卒で芥川賞受賞者である地元の作家・大城立裕氏を含む5名の講演と、テーマに即した展示会を2日間にわたって実施した。地元メディアにも取り上げられ、開催目的はほぼ達成された。

そのほか、書院の引揚げによって愛知大学が設立された当初、教職員の住宅として、また学生との交流の場となった*愛知大学公館(旧師団長官舎)の特別展示会「愛知大学公館特別展一築後100年の洋風建築をめぐって一」を、愛知大学公館2日間の公開を含め約1ヶ月月開催し、そのための*公館研究の成果も展示した。広く県内外各地から1,000名近くの見学者が来訪し、予想以上の反響を得た。

以上の研究関連諸事業は、年報である*『同文書院記念報』vol.21へ、成果として収録した。なお、この年報にはそれ以外に、本研究プロジェクト関連の*論文4本、*資料紹介3本が掲載され、若手研究者のすぐれた成果も見られ、初年度の成果としては、ほぼ目標が達成されたといえる。

・離陸期(2年目)

2年目は1年目の準備の上に、本格的な当研究プロジェクトが始動した。

研究グループでは、①のグループが1年目の準備をふまえ、*国際シンポジウム「近代日中関係史の中の東亜同文書院」のなかで、「東亜同文会・東亜同文書院と日中関係史の再検討」という絞ったテーマで、2名の中国・台湾人研究者を含んだ国際シンポジウムを開催した。核心の論題は、書院の経営母体である東亜同文会のアジア主義および「支那保全論」の1900年前後から1910年代末における日本の対中政策の中での変容にあったが、それに関連して日韓併合前の韓国での教育活動、日中間の革命家の提携や戦後台湾で書院卒の台湾人学生で白色テロにより処刑された林如堉、投獄された呉逸民の戦後の体験、書院の原型となった日清貿易研究所の学生とその進路などの発表も行なわれた。議論は活発に行なわれ、書院の日中間での存在と役割がかなり認識され、シンポジウムの目的はほぼ達成された。

また、*国際シンポジウム「近代日中関係史の中の東亜同文書院」のなかで、②の研究グループによる「東亜同文書院・大調査旅行から見る近代アジア」のテーマでの国際シンポジウムも開催され、外国人研究者を含む*8名が成果を発表した。大調査旅行にテーマを絞ったシンポジウムはこれまで開催されたことはなく、このシンポジウム自体は初めての画期的な事業であった。まず、中国本土を中心にした大調査旅行の時期別展開の特徴をふまえた概説の発表の後、中国の外縁地域と東南アジアの大旅行記録に焦点が置かれた。中国では四川や雲南の少数民族地域の記録から当時の少数民族と漢民族とのかかわり、GISによるコースの復元、また内蒙古では現地での書院生各班の調査実績と調査法も明らかにされ、さらに日本水産物の内陸奥地への流通システムなどが解明された。一方、東南アジアでは大調査旅行コースの全体像が明らかにされた。発表者のうち若い研究者達にとって、研究成果を発表する機会となり、まだ多面的で入り口にすぎないものの質疑も活発に行われた。

一方、啓蒙的講演会・展示会*長崎展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」が前年度の沖縄県那覇市と同様なかたちで開催された。長崎は書院にとって上海への渡航地であり、中国での戦況悪化の時には臨時校舎を設けたりして、縁の深い土地である。ここでは、長崎で中国近代史研究をすすめ成果を挙げたことのある*横山宏章氏ら4名が成果を講演し、あわせて書院から愛知大学、そして長崎にかかわる展示も行った。展示期間は10日間あり、盛況を呈したうえ、講演会には、書院関係者ご家族、子孫の方々も聴講され、当時の写真アルバム等の提供やオーラルヒストリーとしての情報を拝聴でき、研究素材等もうることができたことが副産物といえる。地元各メディアも取り上げてくれ、ほぼ目的を達成したといえる。

以上の発表内容は、①の研究グループの内容を*『同文書院記念報』vol.22別冊②に、また②の研究グループの内容を*『同文書院記念報』vol.22別冊①に収録した。そして*『同文書院記念報』vol.22の本体に、①と②の両研究グループについての質疑分を、長崎講演・展示会については全文を掲載したほか、辛亥革命と東亜同文会、1920年の華北大旱害の実態、大村欣一書院教授の作品、清末民初の水産品の日本

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

からの輸入とその変化など、*4本の論文と3本の資料紹介を収録した。

あわせて、博物館相当施設として史資料の一般公開やホームページ上での公開のために、史資料研究にも力をそそぎ、貴重な史資料のデータベース化、レプリカ化を始めた。

・発展期(3年目)

以上の2年間の経過を経て、「書院の教育と中国研究システム」をテーマとする③グループが、3年目の*国際シンポジウム「東亜同文書院の中国研究－その現代的意味」を行った。ここでは、教育面で、アメリカの地域研究(area studies)と対比しつつ、そのカリキュラムは荒尾精によって作られた日清貿易研究所のものを継承し、日中間の貿易増進を目的とし、世界で初めて行われた「地域研究」のカリキュラムであり、アメリカの地域研究が戦後、政府の手によって行われたのに対し、「下から」行われたものであるというグローバルな視点からの指摘がなされた。研究面では、書院創設期の教員で書院退職後も、長く東亜同文会の活動に参加した根岸侑の中国社会論、とりわけ中国ギルド論の再評価、ならびに現代的意義が論じられた。ここでは根岸侑のギルド論について、近代市民社会における個人の自由、平等、基本的人権という規範意識のない中国社会の「前近代的」性格を指摘しつつ、そこでの危険を回避するための集団的組織であるギルド(会館、公所など)は、官僚の力が強い専制国家体制のもとで、政治的に無力であるかのような形態を取るが、同時に近代になって全国的団体となる政治性を確保したと指摘しているとし、根岸侑の同時代のギルド研究の有効性を述べた。さらに戦前、日本および中国における中国社会論と対比しつつ、根岸侑はコミンテルンの中国分析など既成の理論に頼るのではなく、大旅行を指導する中での中国の商務、経済の実地調査、さらには地道な資料蒐集によって、日本人にとって未知であった買辦やギルドの研究をした先駆者であり、改革開以後の現代の中国社会を理解するため、その「不易」の要素を理解するのに最適の研究だとの指摘がされた。さらに明治期の書院卒業生が、就職の場として満洲を選んだ要因、また満洲側が書院卒業生を求めた要因についての分析が報告された。

前年、国際シンポジウムを行った②グループが、*シンポジウム「書院生、アジアを行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」を行った。7名の報告者が報告したが、そのうち4名は新しい報告者であり、その中には、このテーマで科学研究費を獲得したものもあり、大旅行への研究者の関心の広がりを現していた。ここでは前年に続いて、中国の外縁地域と東南アジアの大旅行記録が焦点になった。外縁といっても満洲、台湾、香港など日本統治下の地域、または植民地での分析が新たに加わった。まず満洲事変前夜から満洲国建国後の調査の変容と、調査に基づいての満洲における日本人の進出のありよう、特に「娘子軍」の活動、さらに大正期の香港旅行から見るとイギリスへの言及は多いが、現地中国系住民についてはほとんど言及されていないこと、台湾での調査で書院生が台湾で求めたのは、「支那の台湾」ではなく、「植民地台湾での日本人らしさ」や「日本の植民地体制」であったとし、両者に共通する現地の中国人への関心の薄さが、明らかになった。また現在の現地調査と対比しつつ1920年代内モンゴル自治区赤峰市街地の都市構造、その他に1910年に雲南四川の大旅行を行った米内山庸夫が後年表した『雲南四川踏査記』にもとづいて清末民初の雲南と滇越鉄道の状況が明らかになった。さらに東南アジアでの大旅行について、前年度の報告を基礎にして、時代の経過に伴う日本人社会の変遷、「からゆきさん」の減少と日本人移民の増加、ならびに書院生の一等国意識と実際の貧乏旅行のギャップという実態が明らかにされた。その他ユニークなものとして、大旅行中の書院生が食べた物についての分析が行われた。

また同じく前年、国際シンポジウムを行った①のグループは、*ワークショップ「東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検討」を行った。ここでは東亜同文書院の前史として位置づけられる日清貿易研究所とそれを作った荒尾精についての評価の変遷を、研究史に即して国家や軍との関係を重視し、情報収集＝スパイ活動をしていたという1960年代の評価から、日本経済史の観点から、欧州の対清策に対抗しての「商権回復」をしようとし、そのために貿易実務者を養成しようとしたという側面が1980年代以後、重視されると指摘された。その他、東亜同文会の後継団体である霞山会が戦前・戦中の東亜同文会の活動を十分に

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

総括することなく、その財産の継承団体として設立されたという点が明らかになった。また東亜同文書院中華学生部の学生が日本見学旅行をしたときの日本への印象、すなわち同時代の中国の若者の見た日本像が明らかになった。なおこのワークショップには、日中の留学生史や日清貿易研究所に参加してその後長く海軍の嘱託として中国情報を提供していた宗方小太郎の研究をしている大里浩秋氏がコメンテーターと参加し、より厳しい視点からコメントがされた。

毎年恒例となっている啓蒙的講演会・展示会として、まず*岐阜展示会・講演会「愛知大学と東亜同文書院大学」が開催された。ここでは*3名が成果を講演し、あわせてテーマに即した展示を行い地元メディアにもとりあげられた。また*広島展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」が開催された。そこでは*書院卒で元NHK中国語講師である宮田一郎氏を含む5名の講演と6日間の展示が行われ、こちらも地元メディアにとりあげられ、二つの展示会・講演会とも、研究プロジェクトの成果を一般向けに公表するという開催目的はほぼ達成された。

以上の発表内容は③グループの内容、および①のグループの内容の一部を*『同文書院記念報』vol.23に収録した。また②グループの内容が*『同文書院記念報』vol.23 別冊①に収録した。『同文書院記念報』vol.23には、国際シンポジウム、ワークショップの発表内容を含む*8本の論文と、近衛文麿の東亜新秩序声明の草案を書いたと言われる中山優の写真集、愛知大学創設期職員の座談会(これは④「書院から愛知大学への接合性」グループの研究のための資料である)を含む*3本の資料紹介が掲載された。また*『愛知大学公館 100年物語 - 旧陸軍第15師団長官舎から「知のサロン」へ』が出版された。

・発展期(4年目)

まず「書院から愛知大学への接合性」をテーマとする④グループがシンポジウム*「海外からの大学引き揚げをめぐる問題とその位相 - 東亜同文書院大学から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合 -」を行った。このシンポジウムはこれまで東亜同文書院・東亜同文書院大学時代の研究から一步踏み出し、後継大学としての愛知大学との接合性に焦点を当てる初めての機会となった。内容としては、一つには本間喜一および小岩井浄という「接合」を担った二人の人物の思想的側面からの検討が行われた。加えて、東亜同文書院大学と愛知大学のそれぞれ開学時の教員組織の比較、また東亜同文書院の教育内容の検討を行った。これにより、書院大学関係者が愛知大学を開学させた思想的背景が明らかになるとともに、「接合」自体を客観的に検討することが可能となった。さらに、比較対象として中国における国家権力の交代期における大学内部の変容が明らかにされ、東亜同文書院大学から愛知大学への接合の事例を相対化する試みもなされた。また、「接合」を担った主体の一つである学生に焦点を当て、愛知大学へ編入した学生の出自を実証的に明らかにする報告も行われた。

また①のグループは、*「近代日中関係史の中のアジア主義 - 東亜同文書院と東亜同文会」という国際シンポジウムを行った。そこでは、東亜同文書院の前史となる日清貿易研究所とそれ以前の漢口楽善堂の性格に対して、19世紀後半の日本の政治、軍事および商権問題の中に位置づけての分析、東亜同文書院出身の山田純三郎による、1910年代から20年代にかけての孫文の広東政府下での産業開発を通じての財政支援の動き、また孫文の広東政府(広州非常政府)時期における宮崎滔天による広東政府承認のため日本外交への働きかけ、さらに戦前、戦中の大アジア主義から戦後の冷戦構造と「脱亜入米」の中での日本のアジアへの向き合い方などを議論した。以上のように東亜同文書院と東亜同文会の活動をアジア主義という視点から議論し、前身としての日清貿易研究所の多面的な評価、アジア主義者山田純三郎および宮崎滔天の孫文革命支援、さらに戦争中の大アジア主義、大東亜共栄圏から戦後のアジアの向き合い方などを通じて、その正負の役割を明らかにした。

本年の啓蒙的講演会・展示会は、東亜同文書院大学教授であり、本間喜一(第2代・第4代学長)とともに、愛知大学創立の中心であった小岩井浄(第3代学長)の故郷での*松本展示・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」が開かれた。そこでは、小松芳郎松本市文書館特別専門員を含む5名の講演者による

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

小岩井浄関連の講演が行われた。同時に 21 日間の先行パネル展、4 日間の展示会が行われ、今回も地元メディアにもとりあげられ反響を呼び、開催目的はほぼ達成された。その他に前年度に出版された*『愛知大学公館 100 年物語』出版記念講演会が地元豊橋で行われ、筆者の藤田佳久愛知大学東亜同文書院大学フェローを含む 3 名の講演が行われた。

以上の発表内容は④グループの内容、および①のグループの内容の一部を*『同文書院記念報』vol.24 に収録した。また①グループの残りの内容を*『同文書院記念報』vol.24 別冊①に収録した。『同文書院記念報』vol.24 には、国際シンポジウム、ワークショップの発表内容を含む*9本の論文と山田純三郎の残した写真集、本間喜一の妻・登亀子の家系図など 3 本の資料紹介、および前年の広島講演会、『愛知大学公館 100 年物語』出版記念講演会、本年の松本講演会の講演内容、および松本で展示されたパネルの一部を収録した。

その他に前年の③グループの国際シンポジウムでとりあげられた根岸侑の著作集*『根岸侑著作集』第 1 巻、第 2 巻が出版された。また正規の学生ではなかったが書院で学び、僧侶およびジャーナリストとして活躍した水野梅暁についての*『鳥居観音所蔵 水野梅暁写真集—仏教を通じた日中提携の模索』が出版された。さらに東亜同文書院大学第42期生、愛知大学一期生である小崎昌業氏による*『小崎外交官、世界を巡る—東亜同文書院大学、愛知大学から各国公使・大使としての軌跡』が出版された。

・発展期(5 年目)

プロジェクトの最終年にあたり、事前に計画されていたシンポジウムの最後のものとして書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業をテーマとする⑤グループが、*国際シンポジウム「東亜同文書院卒業生の軌跡を追う」を行った。その中でまず書院卒業生の進路について全般的な分析を行い、かれらはビジネス教育と外地のフィールド体験の蓄積をふまえ、日露戦争後、日本企業やメディアによる外地進出に伴い、大陸や日本で経済界を中心に幅広く進出し、満洲国ができるまで日本について多く進出し、戦後は、1960 年代の高度経済成長を、50 歳代はその基盤作りに活躍し、40 歳代は外地へのパイオニア役を含め、それを牽引したことを明らかにした。その他日清貿易研究所卒の高橋正二、書院卒の坂本義孝、大内隆雄(山口慎一)の卒業後に中国や日本で教育者及び研究者、翻訳家等として活躍した 3 人について、書院の教育との関連を明らかにした。また書院に入学した台湾の学生の卒業後の事例、とりわけ日本の外務省や台湾総督府に勤めた陳新座、国民党の軍統に参加しながら抗日戦争中の汪精衛政権に参加し日、汪側の情報収集をして日本側に処刑された彭盛木(彭阿木)、新四軍地区に逃亡しその後中共に加入し、戦後は対外貿易での日本語翻訳、さらに上海外国語大学で日本語を教えた王宏(王康緒)の事績を明らかにした。

その他に①グループは、本センターと愛知大学国際問題研究所と中国社会科学院近代史研究所との 3 者の共催により*『近代中国社会と日中関係』という国際シンポジウムを行い、その中の分科会として「東亜同文書院と日中関係」を行った。そこでは、近代中国における海産物供給構造の変容と日中関係、初期東亜同文書院の卒業生の日露戦争下での就職先の分析、戦前日本での中国語教育における東亜同文書院の特色、さらには、東亜同文書院の復活ではないとして創設された愛知大学の創立期における東亜同文書院の位置付けについて明らかにした。また③グループは東アジア仏教運動史研究会(会長榎木瑞生)との共催で*ワークショップ『近代日中仏教交流史からみる東亜同文書院・愛知大学—書院で学んだ藤井静宣(草宣)と、愛知大学に関わった藤井宣丸—』を開催し、正規の学生ではないが、書院で実践的な語学教育を受け、書院の中国研究に触れた藤井静宣、愛知大学設立期の副手であった子息宣丸について、近代日中関係史と書院の枠組みのなかで検討するとともに、豊橋浄圓寺に所蔵される史料の持つ特異性と重要性を明らかにした。

本年の啓蒙的講演会・展示会は、最後の締めとして*名古屋展示会・講演会「東亜同文書院の 45 年 愛知大学の 70 年」が行われた。そこでは 5 年間の展示・講演会を総括した講演を含む 3 本の講演が行われた。講演の際には新たに関連した DVD の上映も行われた。また 5 日間の展示が行われた。これらについて

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

は地元メディアにもとりあげられ、大きな反響を呼んだ。また豊橋の愛知大学本館で*「愛知大学公館 100年物語」の講演が行われ、建築・歴史修復学者ICOMOS国内委員会委員の泉田英夫氏を含む 2 名の講演が行われた。

以上の発表内容は⑤グループの内容を*『同文書院記念報』vol.25 別冊②に収録し、①グループの内容を*『同文書院記念報』vol.25 別冊①に収録し、③グループの討論内容については、『同文書院記念報』vol.25に収録した。また『同文書院記念報』vol.25には、3本の論文と1本の資料紹介、および前年、愛知大学と川西町の共催で本間喜一の故郷山形県川西町で行われた大滝則忠前国立国会図書館長の本間喜一の回想についての講演、同じく前年の④グループのシンポジウムの中で行われた講演、名古屋での展示・講演、全生庵で行われた「荒尾精と愛知大学」についての藤田佳久本センターフェローによる講演、さらに愛知大学における大学改革についての佐藤元彦前学長の講演を収録した。

その他に、この間毎年、国際あるいは国内のシンポジウム、ワークショップを計 5 回行った①のグループは、この間の研究報告をもとにしその中から選択をし、いわば①のグループの研究活動を総括するものとして*『近代日中関係の中のアジア主義—東亜同文会・東亜同文書院を中心に』を出版した。また②グループは 3 年目以後、学外の研究者にも研究への協力を呼びかけつつ研究会やシンポジウムを開催し、かつ各研究者がそれぞれのディシプリンに基づいてそれぞれの学会等における口頭発表や論文発表を積極的に展開した上で、研究活動を総括するものとして*『書院生、アジアに行く：東亜同文書院生が見た 20 世紀前半のアジア』を出版した。その他に、③グループのワークショップに関連して、『方鏡山淨圓寺所蔵 藤井静宣写真集—近代日中仏教提携の実像』が出版され、さらに*『根岸侷著作集』第3巻、第4巻が出版された。

以上5年間のプロジェクトの期間を通じて、日中の貿易実務者養成を目的とし、ビジネスの対象となる現地中国に設置され、ビジネス関係のカリキュラムと中国語教育(これは世界最初のビジネス言語教育であるということが今回指摘された)、さらにフィールドワークである大旅行の実施、それらにもとづく世界最初の下からの「地域研究」組織としての役割を果たした東亜同文書院の内実が実証的に明らかになった。

これらを具体的に各グループのテーマに即して、簡単に述べると①グループ「近代日中関係の再検討」という点では、東亜同文書院および経営母体の東亜同文会の性格をアジア主義団体と位置付け、20世紀前半と戦後の日中関係の変遷の中での両者の果たした独自の役割を明らかにした。より具体的には東亜同文書院の前史でもありモデルである日清貿易研究所の実態、東亜同文会初代会長であった近衛篤磨の「興亜」の思想と初期の東亜同文会と国家との関係、東亜同文会の「支那保全論」と日中関係の変遷によるその内容の変容、さらに東亜同文会の経営した東京同文書院の実態と入学した中国人留学生の果たした役割およびベトナム人潘佩珠(ファンボイチャウ)の東遊運動との関わり、東亜同文会、東亜同文書院の関係者である 2 人のアジア主義者による孫文の革命運動支援の活動、東亜同文書院に入学した台湾人学生と戦後の活動、大アジア主義から戦後「脱亜入米」化する日本でのアジアの向き合い方、戦後、東亜同文会の後継団体である霞山会の東亜同文書院復活の動きとその挫折の動きなどを明らかにした。②グループの「大調査旅行」からみる近代中国像という点では、プロジェクト開始の時期に比べ、多くの新しい参加者が加わった。特筆すべきは、従来空白であった東南アジアでの大旅行の実態が明らかにされたことである。それとともに、大調査旅行を用いての近代中国像および東南アジアを含めた現地日本人社会像、ならびに調査を行った書院生の意識が明らかになった。③グループの「書院の教育と中国研究システム」という点では、グローバルな視点から、そのカリキュラムについて、日中間の貿易増進を目的とし、世界で初めて行われた「下から行われた」「地域研究」のカリキュラムであるとか、また書院の教育は世界最初のビジネス言語教育であり、現在アメリカのビジネス言語教育とも共通性があるということが明らかになった。また書院の中国語教育の特色として、口語および文章語テキストの自作、日中の教員によるペア教育、さらに大旅行の実施という目標の設置などがあるという点が指摘された。書院の中国研究については、代表的人物として根岸侷が注目され、彼の中国社会論、ギルド論について、当時の既成の理論によるのではなく「实事求是」にもとづくものであるとし、再評価および現代的意義が論じられた。④グループの「書院から愛知大学への接合」と

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

いう点では、本間喜一および小岩井浄という「接合」を担った二人の人物の思想的側面からの検討が行われた。加えて、東亜同文書院大学と愛知大学のそれぞれ開学時の教員組織の比較、また東亜同文書院の教育内容の検討を行った。これにより、書院大学関係者が愛知大学を開学させた思想的背景が明らかになるとともに、「接合」自体を客観的に検討することが可能となった。⑤グループの「**書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業**」という点では、書院卒業生の進路について全般的な分析を行い、かれらは戦前、戦中は大陸や日本で経済界を中心に幅広く進出し、戦後は、1960年代の高度経済成長を牽引したことを明らかにした。事例研究として日清貿易研究所卒の高橋正二、書院卒の坂本義孝、大内隆雄(山口慎一)の卒業後に中国や日本で教育者及び研究者、翻訳家等として活躍した3人について、書院の教育との関連を明らかにした。また書院の前史にあたる日清貿易研究所の入学者とその卒業後の進路が明らかになった。その他書院に入学した台湾の学生の卒業後の事例、とりわけ戦後台湾の白色テロで処刑された林如堉、投獄された呉逸民、日中戦争中、日本側の外務省や台湾総督府に勤めた陳新座、国民党の軍統に参加しながら汪精衛政権に参加した彭盛木(彭阿木)、中共に加入し、戦後は大陸で活動した王宏(王康緒)の事績を明らかにした。また日中仏教史交流で大きな役割を果たした水野梅曉、藤井静宣(草宣)の事績、さらに戦後外交官として活躍した小崎昌業氏の事績を明らかにした。

<優れた成果が上がった点>

①の研究グループ(近代日中関係の再検討)

- *馬場毅(論文番号1、69、72、86、以下「論番」図書番号4)：東亜同文会の時代的経過をふまえ、東京同文書院の教育、および辛亥革命とのかかわりでアジア主義の展開の関係性を論じ、さらに研究のまとめとしてグループの論文集を出版した。
- *栗田尚弥(論番3)：東亜同文会前半期の「支那保全」をめぐる「興亜論」の展開を解明した。
- *武井義和(論番13)：山田純三郎による孫文の広東政府下での産業開発を通じての財政支援の動きを明らかにした。
- *李長莉(論番4)：宮崎滔天による広東政府承認のため日本外交への働きかけを明らかにした。
- *堀田幸裕(論番2)：戦後、東亜同文会の後継団体である霞山会の東亜同文書院復活の動きとその挫折の動きなどを明らかにした。
- *D.Raynolds(図書番号12、以下「図番」)：清国・民国の近代化過程での日本とのかかわりを解明した。
- *藤田佳久(論番90)：初期東亜同文会が早々と清韓両国とのネットワークを確立していた先駆性を解明した。

②グループ(「大調査旅行」からみる近代中国像)

- *加納寛(論番80図番5)：従来空白であった書院生の東南アジアでの大調査旅行の実態を明らかにするとともに、本グループの成果を出版した。
- *藤田佳久(論番71、76)：1920年の華北の大旱害の虚実を書院生が解明し、書院当局を走らせた事実の解明と書院の大調査旅行から見られる中国像を明らかにした。
- *松岡正子(論番78)：27期生の成都松潘日誌を民族的視点との関係で解読した新鮮さがある。
- *高木秀和(論番8、74、83、93)：清末の日本との水産物の流通システムを解明した点と、現在の現地調査と対比しつつ1920年代内モンゴル自治区赤峰市街地の都市構造を明らかにした点に新鮮さがある。
- *馮天瑜・劉柏林等(図番14)：大調査旅行記として3巻の中国語に翻訳し、中国人研究者へ同旅行記研究の道を開いた。
- *荒武達朗(論番22)：書院生の目に映じた満洲事変前後における満洲における日本人社会について明らかにした。
- *岩田晋展(論番11)：台湾での調査で書院生が台湾で求めたのは、「支那の台湾」ではなく、「植民地台湾での日本人らしさ」や「日本の植民地体制」であり、現地の中国人への関心の薄さを指摘した。

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

③グループ(書院の教育と中国研究システム)

- *三好章(論番60、図番1、7、8、10): 根岸侑の中国社会論、ギルド論の現代的意義を明らかにし、さらに彼の著作集を出版した。
- *石井知章(論番63)根岸侑のギルド論は、ギルドは政治的に無力であるという形態をとるが、全国的団体となる政治性を有していると指摘しているとし、そのギルド研究の有効性を述べた。
- *Douglas R,Raynolds(論番64): 書院のカリキュラムは、世界最初の「下から」行われた「地域研究」のカリキュラムであることを指摘した。
- *ポール・シンクレア(論番24): 現代アメリカのビジネス言語教育と対比しつつ、書院の中国語教育は、世界最初のビジネス言語教育であることを指摘した。
- *石田卓生(論番34、35、92): 日清貿易研究所の教育について明らかにし、さらに書院の中国語教育の特色は、独自の教科書の作成、日中の教師によるペア教育、大旅行の実施による目標の設置があるという点と、書院の中国語教科書の系譜の原点を解明した。

④グループ(書院から愛知大学への接合性)

- *加島大輔(論番43): 東亜同文書院大学と愛知大学の教員層の人事的側面による接合性を明らかにした。
- *三好章(論番42): 「接合」を担った小岩井浄の戦中における「転向」と戦後の「引き揚げ」時期までの思想的変遷の検討を行った。

⑤グループ(書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業)

- *藤田佳久(論番25): 書院卒業生が戦前、戦中は外地や日本で経済界中心に活躍し、戦後は高度経済成長を牽引した事を明らかにした。
- *武井義和(論番81、88): 書院の前身校、日清貿易研究所学生の動向を解明した。また書院で学んだ台湾人学生について明らかにした。
- *石田卓生(論番 28): 高橋正二、坂本義孝、大内隆雄(山口慎一)の卒業後に教育者、研究者、翻訳家等として活躍した3人について、書院の教育との関連を明らかにした。
- *許雪姫(論番 20、26): 書院に入学した台湾の学生の卒業後の進路の事例を明らかにした。
- *野口武(論番*31、40): 今まで明らかでなかった日清貿易研究所の入学生とその進路を明らかにした。
- *三好章・広中一成(図書番号 2): 日中仏教交流で大きな役割を果たした藤井静宣の写真集を出版した。
- *広中一成(図書番号 9): 同じく日中仏教交流で大きな役割を果たした水野梅暁の写真集を出版した。

<課題となった点>

当初、書院が日中戦争中借用していた上海交通大学校史室の研究者も参加して③④⑤のグループのシンポジウムを行うことを計画し、実際に招聘したが、上海交通大学 120 年史の作成の準備、記念式典の挙行、本人の体調不良などで参加できなかった。ただ 120 年校史の出版が予定されていると聞くので、その中で書院についても触れられることと思われる。

<自己評価の実施結果と対応状況>

組織内部の評価は、学内にて開催する東亜同文書院大学記念センター運営委員会において、事業計画・予算の検討、事業進捗状況確認、点検等自己評価を行った。運営委員会メンバーのうち、センター長、研究代表者、センターフェローの3名が、随時研究状況を確認のうえ、事務局と調整を行った。特に毎年のシンポジウム、および講演会・展示会を円滑に行う点に留意した。その他、①、②グループが最終年度にこの間の研究内容を出版する際に、論文の選択を行い、必要なら加筆を求め質の維持に留意した。他のグループの場合も、『同文書院記念報』に論文を採択する際に同様な意図で適宜論文の採択、加筆を求め

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

た。なお研究費の配分については毎年度予算を組み事務局で一括管理し、センター長、グループ長の承認の上申請し、事後に支給するようにしていた。その他学内の内部監査室による学内業務監査が定期的に行われた。更に、センター行事、イベント等ニュースは、愛知大学東亜同文書院大学記念センターホームページ <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/> に随時公開し、社会に向け情報公開をするとともに、学術雑誌・啓蒙雑誌に掲載し、地域からの評価を受入れるようにした。

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

中間評価段階では、外部評価委員による評価委員会を事業 3 年目の後半に開催する予定であったが、結局プロジェクト実施期間内には、外部委員会による外部評価は実施できなかった。プロジェクト終了後、石原潤氏(京都・名古屋・奈良大学名誉教授)、田中仁氏(大阪大学法学研究科教授、日本現代中国学会理事長)に外部評価委員を委託した。お二人には事前に関連する資料を送付して目を通してもらった上で、平成 29 年 5 月 19 日に本センターに来学いただき、本事業の説明をした上で、評価してもらった。お二人から、研究面について各グループとも着実に成果をあげており、書院の先駆性が明らかになるなど新しい評価が得られている面もあるとし、高く評価してもらった。その上で今後の課題として外地にあった日本の教育機関、たとえば建国大学などとの比較研究をしたらどうかという提言があった。その他に研究を進めるにあたって、資料における個人情報保護および知的財産権の保護と、その公開の問題について基準作りを考えるべきではないかという提言があった(本学では書院生の学籍簿は、遺族など関係者以外には公開していない。また大旅行の記事など引用する際には、極力著者に許可を得るようにしている)。その他に収蔵資料庫や建物の補修にどれだけの予算の執行が行われたかという点をただされ、それに答えるとともに、その現場を実際に見て貰った。

＜研究期間終了後の展望＞

- 1、中国国家図書館で復刻された東亜同文書院学生による「大旅行」の手稿資料なども用いながら、中国の上海交通大学、内モンゴル大学、中国社会科学院地理学研究所などと共同で、過去に実施された「大調査旅行」について、中国の現代の問題(例えば環境問題、物流、工業、商業、商慣行等)と結びつけて再調査を行い、近代 100 年間にわたる中国、東アジア世界の社会的経済的変動を比較史的に検討する。
- 2、近代アジアにおける東亜同文書院と東亜同文会の展開と機能に関する継続的検討。本プロジェクトでは、この両者を典型的なアジア主義団体として位置づけて分析したが、さらにそれを今回言及できなかった日中関係が緊張した 1930 年代の活動にも広げて分析をしていく。
- 3、戦後における書院・愛大卒業生のグローバルな軌跡・展開に関する研究。戦後、外地からの引き揚げ者と直接の入学者により構成された愛大は、書院と直接の関係はないとされたが、前述した書院システムで育てられた書院卒業生とともに、その卒業生は多くグローバルな展開を行った。この点を実証的に明らかにする。

＜研究成果の副次的効果＞

本研究プロジェクトによって書院研究が国内のみならず国際的にも進展することをベースにして、本学東亜同文書院大学記念センターを博物館相当施設へとレベルアップが進んだ。

12 キーワード

- | | | |
|-------------------|----------------------|-----------------------|
| (1) <u>東亜同文書院</u> | (2) <u>近代日中関係史</u> | (3) <u>東亜同文書院システム</u> |
| (4) <u>大調査旅行</u> | (5) <u>東アジアの地域研究</u> | (6) <u>清末・民国期</u> |
| (7) <u>東亜同文会</u> | (8) <u>愛知大学との接合性</u> | |

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

13 研究発表の状況

＜雑誌論文＞

No.	著者名	論文表題			
*1	馬場毅	*東亜同文会のアジア主義について			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文会・東亜同文書院を中心に』(馬場毅編、あるむ)	無		2017年3月	53-79

No.	著者名	論文表題			
*2	堀田 幸裕	*東亜同文書院の「復活」問題と霞山会			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文会・東亜同文書院を中心に』(馬場毅編、あるむ)	無		2017年3月	133-161

No.	著者名	論文表題			
*3	栗田尚弥	*日本と「興亜」の間－近衛篤磨と東亜同文会の「支那保全」を巡って			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文会・東亜同文書院を中心に』(馬場毅編、あるむ)	無		2017年3月	17-52

No.	著者名	論文表題			
*4	*李長莉(朝田紀子訳)	*宮崎滔天と孫文の広州非常政府における対日外交－何天炯より宮崎滔天への書簡を中心に－			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文会・東亜同文書院を中心に』(馬場毅編、あるむ)	無		2017年3月	81-98

No.	著者名	論文表題			
5	加納寛	東亜同文書生の台湾旅行にみる神社の位置付け			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『文明21』(愛知大学国際コミュニケーション学会)	無	38号	2017年3月	103-114

No.	著者名	論文表題			
6	藤田佳久	幕末期に上海を訪れた岸田吟香の行動空間とコミュニティ形成			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	25	2017年3月	5-34

No.	著者名	論文表題			
7	石田卓生	水野梅暁ならびに藤井静宣(草宣)と東亜同文書院: 非正			

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

		規学生からみる東亜同文書院の位置側面			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	25	2017年3月	35-60

No.	著者名	論文表題			
*8	高木秀和	*内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造—1910、20年代と現在との比較			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『書院生、アジアに行く 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)	無		2017年3月	85-108

No.	著者名	論文表題			
9	烏力吉陶格套	明治末期における東亜同文書院のモンゴル大調査旅行			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『書院生、アジアに行く 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)	無		2017年3月	53-69

No.	著者名	論文表題			
10	塩山正純	『大旅行誌』の思い出に記された香港—大正期の記述を中心に			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『書院生、アジアに行く 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)	無		2017年3月	151-166

No.	著者名	論文表題			
*11	岩田 晋典	*大調査旅行における書院生の台湾経験——“近代帝国”を確認する営み			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『書院生、アジアに行く東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)	無		2017年3月	219-249

No.	著者名	論文表題			
12	黄英哲	台湾文化人における「抗日戦争」			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『対日協力政権とその周辺—自主、協力、抵抗—』(愛知大学国際問題研究所編)	無		2017年3月	273-307

No.	著者名	論文表題			
*13	武井 義和	*孫文支援者・山田純三郎の革命派への関与とその実態について—1920年代、革命派の広東省の資源開発を目指す動きを中心に—			

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『近代日中関係史の中のアジア主義—東亜同文会・東亜同文書院を中心に』(馬場毅編、あるむ)	無		2017年3月	99-111

No.	著者名	論文表題		
14	武井 義和	日本統治下の朝鮮半島へ入った大調査旅行の書院生たち—彼らの意識と経験を中心に		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『書院生、アジアを行く—東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)		無		2017年3月
No.	著者名	論文表題		
15	武井 義和	「広東商品取引所」設置をめぐる日本人同士の競争について		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	25	2017年3月

No.	著者名	論文表題		
16	岩田 晋典	東亜同文書院生の植民地観と台湾:『大旅行誌』における植民地主義言説に関する試論		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『文明21』(愛知大学国際コミュニケーション学会)		無	38号	2017年3月

No.	著者名	論文表題		
17	塩山正純	東亜同文書院生の台湾旅行にみる「台北」像		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『文明21』(愛知大学国際コミュニケーション学会)		無	38号	2017年3月

No.	著者名	論文表題		
18	須川 妙子	『東亜同文書院大旅行誌』の食の記述にみる近代日本青年のアジア観—台湾の例—		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『文明21』(愛知大学国際コミュニケーション学会)		無	38号	2017年3月

No.	著者名	論文表題		
19	三好 章	維新政府の対日交流 — 中小学教員訪日視察団の見たもの		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『対日協力政権とその周辺 — 自主・協力・抵抗』(愛知大学国際問題研究所編)		無		2017年3月

No.	著者名	論文表題		
-----	-----	------	--	--

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

20	*許雪姫(佃隆一郎訳)	*東亜同文書院中の台湾籍学生と林如埭、吳逸民両人の戦後の白色テロ体験			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文会・東亜同文書院を中心に』(馬場毅編、あるむ)		無		2017年3月	113-132

No.	著者名	論文表題			
21	荒武達朗	満洲地域史研究における『東亜同文書院大旅行誌』の史的価値			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『書院生、アジアに行く 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)		無		2017年3月	37-49

No.	著者名	論文表題			
*22	荒武 達朗	*書院生のまなざしに映る20世紀前半満洲地域の日本人			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『書院生、アジアに行く 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)		無		2017年3月	187-218

No.	著者名	論文表題			
23	須川妙子	『大旅行誌』の食記述にみる書院生の心情変化-「雲南ルート」選択の意義を探る—			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『書院生、アジアに行く 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』(加納寛編、あるむ)		無		2017年3月	137-149

No.	著者名	論文表題			
*24	ポール・シンクレア	*東亜同文書院による世界初のビジネス言語教育と現代アメリカのビジネス言語教育			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*25別冊②	2017年1月	5-11

No.	著者名	論文表題			
*25	藤田佳久	*東亜同文書院・同大学卒業生の軌跡と戦後日本の経済発展			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*25別冊②	2017年1月	45-63

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	著者名	論文表題			
*26	許雪姬	*論東亜同文書院台湾学生的人数一兼論陳新座、彭盛木、王康緒三人不同的際遇			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*25別冊②	2017年1月	30-44

No.	著者名	論文表題			
27	小川 悟	活躍する東亜同文書院卒業生			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	25別冊②	2017年1月	65-86

No.	著者名	論文表題			
*28	石田卓生	*日清貿易研究所・東亜同文書院の教育と卒業生の事例的研究:高橋正二(研究所卒):坂本義孝(書院第1期):大内隆雄(書院第26期)の卒業後の軌跡			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*25別冊②	2017年1月	12-29

No.	著者名	論文表題			
29	劉柏林	愛知大学図書館的「霞山文庫」			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
国家図書館編『東亜同文書院 中国調査手稿叢刊』国家図書館出版社		無		2016年11月	1-6

No.	著者名	論文表題			
30	野口 武	日清貿易研究所出身者の「立身」と教育機会(2)			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『愛知大学国際問題研究所紀要』(愛知大学国際問題研究所)		有	148号	2016年10月	37-69

No.	著者名	論文表題			
*31	野口 武	*日清貿易研究所生一覧表の作成と『対支回顧録』編纂をめぐる若干の考察			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『愛知大学国際問題研究所 Occasional paper』		無	*5号	2016年10月	1-20

No.	著者名	論文表題			
32	栗田尚弥	近衛篤磨を巡る人々(一)荒尾精と根津一			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『Think Asia』(一般財団法人霞山会)		無	25	2016年9月	3-5

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	著者名	論文表題			
33	高木秀和	近代中国における海産物供給構造の変容: 昆布・鰯を中心に			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	25別冊 ①	2016年9月	5-17

No.	著者名	論文表題			
*34	石田卓生	*日清貿易研究所の教育について: 高橋正二手記を手がかりにして			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『現代中国』(日本現代中国学会)		有	*90	2016年9月	51-64

No.	著者名	論文表題			
*35	石田卓生	*戦前日本の中国語教育の変遷: 東亜同文書院を事例として			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*25別冊 ①	2016年9月	37-41

No.	著者名	論文表題			
36	三好 章	「同時代人としてみた清末郷紳」			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『根岸侘著作集』第3巻(不二出版)		無		2016年8月	1-27

No.	著者名	論文表題			
37	馬場毅	辛亥革命与東亜同文会			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『社会文化与近代中国社会转型』(中国社会科学出版社)		無		2016年7月	214-227

No.	著者名	論文表題			
38	堀田 幸裕	東亜同文書院の「復活」問題と霞山会			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	24	2016年3月	17-32

No.	著者名	論文表題			
39	石田卓生	東亜同文書院の中国語文法教育について			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	24	2016年3月	119-142

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	著者名	論文表題			
*40	野口 武	*日清貿易研究所出身者の「立身」と教育機会(1)			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『愛知大学国際問題研究所紀要』(愛知大学国際問題研究所)		有	*147号	2016年3月	45-62

No.	著者名	論文表題			
41	岩田 晋典	昭和期台湾への大旅行調査と観光: 第29期生第21班の「南華・台湾への旅」の例			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	24	2016年3月	105-117

No.	著者名	論文表題			
*42	三好 章	*小岩井浄とその時代—戦前から戦後へ			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*24	2016年3月	41-54

No.	著者名	論文表題			
*43	加島大輔	*東亜同文書院大学教員と愛知大学教員の人事的側面における接合性—両者の学部開設時と開学時における教員層の検討を通して—			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*24	2016年3月	55-70

No.	著者名	論文表題			
44	三好 章	「買辦」と「華僑」			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『根岸侷著作集』第2巻(不二出版)		無		2016年3月	1-26

No.	著者名	論文表題			
45	三好 章	村松祐次の中国論—『中国経済の社会態制』について			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『愛知大学国際問題研究所紀要』(愛知大学国際問題研究所)		無	147号	2016年3月	63-80

No.	著者名	論文表題			
46	Laura L. Kusaka	Book Review: Native-Speakerism in Japan: Intergroup Dynamics in Japan			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

『言語と文化 愛知大学語学教育研究室紀要』(愛知大学語学教育研究室)	有	34号	2016年1月	215-223
------------------------------------	---	-----	---------	---------

No.	著者名	論文表題			
47	石田卓生	大内隆雄和東亜同文書院			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『偽満州時期文学史料整理与研究: 偽満州国文学研究在日本』(北方文芸出版社)	無		2016年	158-176

No.	著者名	論文表題			
48	馬場毅	大アジア主義から「脱亜入米」へ			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	24別冊①	2015年12月	27-45

No.	著者名	論文表題			
49	武井 義和	山田純三郎の孫文支援について～財政的支援活動と人間関係を中心に～			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	24別冊①	2015年12月	13-20

No.	著者名	論文表題			
50	岩田 晋典	東亜同文書院大旅行調査における台湾訪問ルート			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『文明21』(愛知大学国際コミュニケーション学会)	無	35号	2015年12月	87-97

No.	著者名	論文表題			
51	馬場毅	従大亜洲主義到「脱亜入米」			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『何謂戦後: 亜洲的1945年及其之後』(允晨文化実業)	無		2015年10月	113-144

No.	著者名	論文表題			
52	三好 章	村松祐次の中国論 關於《中國經濟的社會態制》			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『何謂戦後: 亜洲的1945年及其之後』(允晨文化実業)	無		2015年10月	155-170
No.	著者名	論文表題			
53	三好 章	根岸侑の生涯と中国研究			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『根岸侑著作集』第1巻(不二出版)	無		2015年8月	1-18

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	著者名	論文表題			
54	栗田尚弥	東亜同文会の創設者・近衛篤磨—その人と思想(四)			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『Think Asia』(一般財団法人霞山会)		無	NO.20	2015年6月	3-5

No.	著者名	論文表題			
55	石井知章	東亜協同体論におけるマルクス主義の思想的位置			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『政治思想研究』(政治思想学会)		有	15	2015年5月	58-80

No.	著者名	論文表題			
56	栗田尚弥	東亜同文会の創設者・近衛篤磨—その人と思想(三)			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『Think Asia』(一般財団法人霞山会)		無	NO.19	2015年3月	3-5

No.	著者名	論文表題			
57	佃 隆一郎	愛知大学公館の変遷—師団長官舎時代からのエピソード—			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『一般教育論集』(愛知大学一般教育研究室)		無	48	2015年3月	5-13

No.	著者名	論文表題			
58	野口 武	『日清貿易研究所』研究の成果と課題——東亜同文書院前史としての位置付けと荒尾精の評価について			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	23	2015年3月	69-89

No.	著者名	論文表題			
59	岩田 晋典	東亜同文書院大旅行調査と植民地台湾			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『文明21』(愛知大学国際コミュニケーション学会)		無	34号	2015年3月	61-76

No.	著者名	論文表題			
*60	三好 章	*東亜同文書院の20世紀中国研究—根岸侑を例として			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*23	2015年3月	17-32

No.	著者名	論文表題			
61	仁木賢司	東亜同文書院との私的出会いについて—北米に於ける極東アジアとその資料			

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	23	2015年3月	61-65

No.	著者名	論文表題		
62	湯原健一	語学学習者の受け皿としての満洲		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	23	2015年3月
		ページ		
		33-48		

No.	著者名	論文表題		
*63	石井知章	*根岸信と中国ギルドの研究		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*23	2015年3月
		ページ		
		49-59		

No.	著者名	論文表題		
*64	Douglas R,Raynolds	*Toa Dobun Shoin and Its China Study Curriculum: Thinking Outside the Box		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*23	2015年3月
		ページ		
		3-17		

No.	著者名	論文表題		
65	栗田尚弥	東亜同文会の創設者・近衛篤麿ーその人と思想(二)		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『Think Asia』(一般財団法人霞山会)		無	NO.18	2014年12月
		ページ		
		3-5		

No.	著者名	論文表題		
66	高木秀和	内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造ー1920年代と現在の比較ー		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	23別冊①	2014年11月
		ページ		
		18-27		

No.	著者名	論文表題		
67	栗田尚弥	東亜同文会の創設者・近衛篤麿ーその人と思想(一)		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『Think Asia』(一般財団法人霞山会)		無	NO.17	2014年9月
		ページ		
		3-5		

No.	著者名	論文表題		
68	増田喜代三	清末民初の雲南事情と滇越鉄道について: 東亜同文書		

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

		院第8期生米内山庸夫に着目して			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	23別冊①	2014年11月	28-37

No.	著者名	論文表題			
*69	馬場 毅	*孫文の大アジア主義と日本—アジア認識の見方と方法			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*中国社会の基層変化と日中関係の変容』(日本評論社)	無		2014年7月	3-16

No.	著者名	論文表題			
70	武井 義和	孫文支援者・山田純三郎の孫文死後の意識とその背景について—1930～40年代の日中関係観をめぐって—			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『紀念孫中山華人文化与当代社会発展』(國立國父紀念館)	無		2014年6月	349-374

No.	著者名	論文表題			
*71	藤田 佳久	*1920年の華北大旱害をめぐって—東亜同文書院生の調査旅行報告が東亜同文書院の調査を走らす—			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*22	2014年3月	105-121

No.	著者名	論文表題			
*72	馬場 毅	*辛亥革命と東亜同文会			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*22	2014年3月	95-104

No.	著者名	論文表題			
73	武井 義和	大村欣—東亜同文書院教授について～経歴、担当科目、中国観を中心に～			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*22	2014年3月	122-133

No.	著者名	論文表題			
*74	高木 秀和	*清末民初期における日本からの水産輸入品とその変化—「大旅行」報告書をもとに—			

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*22	2014年3月	134-139

No.	著者名	論文表題		
75	武井 義和	東亜同文書院の「未発の可能性」について		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『大正・昭和期の日本政治と国際秩序—転換期における「未発の可能性」をめぐって—』(思文閣)		無		2014年1月
				ページ
				302-331

No.	著者名	論文表題		
76	藤田 佳久	東亜同文書院生の大調査旅行の展開と記録された中国像		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ①	2013年12月
				ページ
				5-21

No.	著者名	論文表題		
77	馬場 毅	東亜同文会のアジア主義について		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	22別冊②	2013年12月
				ページ
				12-25

No.	著者名	論文表題		
*78	松岡 正子	*大旅行調査からみる四川辺疆—27期(1930)巴蜀岷浩経済調査班「成都—松潘」日誌を読み解く		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ①	2013年12月
				ページ
				29-40

No.	著者名	論文表題		
79	増田喜代三	大旅行ルート of Google Earth によるトレース: 第12期生の「雲南班」の調査旅行コースから		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	22別冊①	2013年12月
				ページ
				41-49

No.	著者名	論文表題		
*80	加納 寛	*大旅行調査から見る東南アジアと日本		
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ①	2013年12月
				ページ
				23-28

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	著者名	論文表題			
*81	武井 義和	*日清貿易研究所について～学生たちの入学前の状況、卒業後の進路を中心に～			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ②	2013年12月	6-11

No.	著者名	論文表題			
82	暁 敏	書院生の内モンゴル中西部の社会経済調査を中心に			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ①	2013年12月	63-68

No.	著者名	論文表題			
*83	高木 秀和	*大旅行駐在班の調査成果からみた明治期における昆布生産・輸出状況—山田良政の進路にも着目して—			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ①	2013年12月	50-62

No.	著者名	論文表題			
84	栗田 尚弥	日本と『興亜』の間—近衛篤磨と東亜同文会の「支那保全」を巡って—			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	22別冊 ②	2013年12月	26-40

No.	著者名	論文表題			
85	許 雪姫	東亜同文書院的台湾学生与戦後白色恐怖経験			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)		無	*22別冊 ②	2013年12月	52-64

No.	著者名	論文表題			
*86	馬場 毅	*東京同文書院について			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ
*『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって』(東方書店)		無		2013年11月	3-29

No.	著者名	論文表題			
87	馬場 毅	孫文の大アジア主義と日本(孫文的大亜州主義と日本)			
雑誌名		レフェリー有無	巻	発行年	ページ

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

『孫學研究』(國立國父紀念館)	有	第15期	2013年11月	121-148
-----------------	---	------	----------	---------

No.	著者名	論文表題			
*88	武井 義和	*東亜同文書院で学んだ台湾人学生について			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって』(東方書店)	無		2013年11月	31-48
No.	著者名	論文表題			
89	佃 隆一郎	台北帝国大学から愛知大学へ			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって』(東方書店)	無		2013年11月	49-69

No.	著者名	論文表題			
*90	藤田 佳久	*20世紀初期の東亜同文会の東アジアをめぐるネットワーク—『東亜同文会報告』から—			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*21	2013年3月	103-115

No.	著者名	論文表題			
*91	武井 義和	「科学的興業研究所設立案」について—「根津家資料」—を手掛かりとして			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*21	2013年3月	116-120

No.	著者名	論文表題			
*92	石田 卓生	*東亜同文書院使用以前の御幡雅文『華語跬歩』について			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*21	2013年3月	121-132

No.	著者名	論文表題			
*93	高木 秀和	*明治時代における対清昆布輸出の状況—『支那経済全書』をもとに—			
	雑誌名	レフェリー有無	巻	発行年	ページ
	*『同文書院記念報』(愛知大学東亜同文書院大学記念センター)	無	*21	2013年3月	133-141

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

<図書>

No.	著者名	出版社	
*1	三好 章(編集解説)	不二出版	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『根岸侷著作集』第4巻	2017年4月	392

No.	著者名	出版社	
*2	三好 章監修 広中一成・長谷川怜編	社会評論社	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『方鏡山淨圓寺所蔵 藤井静宣写真集 近代日中仏教提携の実像』	2017年3月	160

No.	著者名	出版社	
3	三好 章(編集責任者)	あるむ	
	書名	発行年月	総ページ数
	『対日協力政権とその周辺 — 自主・協力・抵抗』	2017年3月	334

No.	著者名	出版社	
*4	馬場毅編	あるむ	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『近代日中関係史の中のアジア主義—東亜同文会・東亜同文書院を中心に』	2017年3月	173

No.	著者名	出版社	
*5	加納寛編	あるむ	
	書名	発行年	総ページ数
	*『書院生、アジアに行く: 東亜同文書院生が見た20世紀前半のアジア』	2017年3月	273

No.	著者名	出版社	
6	黄英哲	中国江蘇大学出版社	
	書名	発行年月	総ページ数
	『戦後台湾文化重建』	2016年12月	197

No.	著者名	出版社	
*7	三好 章(編集解説)	不二出版	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『根岸侷著作集』第3巻	2016年8月	520

No.	著者名	出版社	
*8	三好 章(編集解説)	不二出版	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『根岸侷著作集』第2巻	2016年3月	602

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	著者名	出版社	
*9	広中一成・長谷川怜・松下佐知子編	社会評論社	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『鳥居観音所蔵 水野梅暁写真集』	2016年3月	192

No.	著者名	出版社	
*10	三好 章(編集解説)	不二出版	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『根岸侷著作集』第1巻	2015年8月	522

No.	著者名	出版社	
11	武井 義和	株式会社あるむ	
	書名	発行年月	総ページ数
	『孫文を支えた日本人 山田良政・純三郎兄弟』(増補改訂版)	2014年3月	90

No.	著者名	出版社	
*12	D.レイノルズ	The Association for Asian Studies, Inc.	
	書名	発行年月	総ページ数
	*EAST MEETS EAST: Chinese Discover the Modern World in Japan, 1854-1898.	2014年	733

No.	著者名	出版社	
13	馬場 毅、許 雪姫、謝 国興、黄 英哲 共編	東方書店	
	書名	発行年月	総ページ数
	『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって』	2013年11月	552

No.	著者名	出版社	
*14	馮 天瑜、劉 柏林、李 少軍 選編	社会科学文献	
	書名	発行年月	総ページ数
	*『東亜同文書院中国調査資料選譯(上、中、下冊)』	2012年11月	1649

No.	著者名	出版社	
15	藤田 佳久	中日新聞社	
	書名	発行年月	総ページ数
	『日中に懸ける—東亜同文書院の群像』(増補)	2012年11月	269

No.	著者名	出版社	
16	藤田佳久 監修・解説 高木宏治 編集	ゆまに書房	
	書名	発行年月	総ページ数
	『東亜同文会報告』	2012年10月	11017

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

<学会発表>

No.	発表者	発表表題	
1	加納寛	東南アジアにおける「大旅行」ルートと日本人社会	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学国際コミュニケーション学会シンポジウム『100年前のアジア旅行: 東亜同文書院「大旅行」と近代日本青年』		2017年2月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者	発表表題	
2	岩田 晋典	観光から見た大旅行: 台湾の事例	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学国際コミュニケーション学会シンポジウム『100年前のアジア旅行: 東亜同文書院「大旅行」と近代日本青年』		2017年2月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表表題	
3	藤田佳久	東亜同文書院・同大学卒業生の軌跡と戦後日本の経済発展	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う』		2017年1月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表表題	
4	石田卓生	日清貿易研究所・東亜同文書院の教育と卒業生の事例的研究	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う』		2017年1月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表表題	
5	小川 悟	活躍する東亜同文書院卒業生	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う』		2017年1月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表表題	
6	栗田 尚弥	同人種同盟論を巡って	
学会名		発行年月	開催地
「Think Asia－アジア理解講座」シンポジウム『近衛篤磨とその時代－近衛篤磨と明治アジア主義－』		2016年12月	立命館大学衣笠キャンパス

No.	発表者	発表表題
7	岩田 晋典	The Great Journeys of Toa Dobun Shoin College and Its Routes

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

学会名	発行年月	開催地
the 5th Bi-Annual International Conference of the Japanese Studies Association of Southeast Asia (JSA-ASEAN)	2016年12月	フィリピン共和国セブ市

No.	発表者名	発表標題	
8	Laura L. Kusaka, Sunao Fukunaga	Furthering the Conversation on Native-Speakerism	
学会名		発行年月	開催地
JALT 2016		2016年11月	名古屋市

No.	発表者名	発表標題	
9	三好 章	「静宣(草宣)の学んだ東亜同文書院……雑誌『支那』・『支那研究』から見る」	
学会名		発行年月	開催地
東亜同文書院大学記念センター・東アジア仏教運動史研究会共催ワークショップ『近代日中仏教交流史からみる東亜同文書院・愛知大学—書院で学んだ藤井静宣(草宣)と、愛知大学に関わった藤井宣丸—』		2016年11月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
10	長谷川 怜	1930年代の藤井静宣—留学・編纂・視察	
学会名		発行年月	開催地
東亜同文書院大学記念センター・東アジア仏教運動史研究会共催ワークショップ『近代日中仏教交流史からみる東亜同文書院・愛知大学—書院で学んだ藤井静宣(草宣)と、愛知大学に関わった藤井宣丸—』		2016年11月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
11	長谷川 怜	人々の日露戦争イメージ 1904-1935	
学会名		発行年月	開催地
国際ワークショップ 東亜論壇2016 華東師範大学学術交流会		2016年9月	華東師範大学

No.	発表者	発表表題	
12	高木 秀和	近代中国における海産物供給構造の変容: 昆布・鰯を中心に	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター・愛知大学国際問題研究所・中国社会科学院近代史研究所共催国際ワークショップ『近代中国社会と日中関係』		2016年9月	愛知大学名古屋校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	発表者名	発表標題	
13	佃 隆一郎	愛知大学創立期の「東亜同文書院」—その影響と意	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター・愛知大学国際問題研究所・中国社会科学院近代史研究所共催国際ワークショップ『近代中国社会と日中関係』		2016年9月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者	発表表題	
14	須川 妙子	『東亜同文書院大旅行誌』の食の記述にみる近代日本青年のアジア観	
学会名		発行年月	開催地
日本調理科学会平成28年度大会		2016年8月	名古屋学院大学

No.	発表者名	発表標題	
15	武井 義和	大村欣一・東亜同文書院教授の中国認識	
学会名		発行年月	開催地
日本国際文化学会第15回全国大会		2016年7月	早稲田大学

No.	発表者名	発表標題	
16	武井 義和	孫文支援者・山田純三郎の革命派への関与とその実態について～1920年代、革命派の広東省の資源開発を目指す動きを中心に～	
学会名		発行年月	開催地
日本現代中国学会西本部会研究集会		2016年6月	西南学院大学

No.	発表者	発表表題	
17	加納寛	朝日新聞秘蔵写真が語る「大東亜共栄圏」: タイ関連写真から	
学会名		発行年月	開催地
東南アジア学会第95回研究大会		2016年6月	大阪大学豊中校舎

No.	発表者名	発表標題	
18	野口 武	『対支回顧録』の編纂過程と「日清貿易研究所生一覧表」	
学会名		発表年月	開催地
平成27年度岡山大学「大学機能強化戦略経費(大型研究推進支援)」研究課題に基づく研究集会『もう一つの「学都」岡山の物語—閑谷学校を中心とする近代アジアネットワークの研究—』		2016年3月26日	岡山大学文法経1号館

No.	発表者名	発表標題	
19	藤田佳久	東亜同文書院と岡山県からの入学生について	

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

学会名	発行年月	開催地
岡山大学東アジア国際協力・教育研究研究会	2016年3月	岡山大学

No.	発表者名	発表標題	
20	三好 章	「小岩井浄とその時代—1945年前後を中心に」	
	学会名	発行年月	開催地
	東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『海外からの大学引き揚げをめぐる問題とその位相—東亜同文書院大学から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合—』	2016年2月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
21	藤田佳久	「本間喜一—東亜同文書院大学・同呉羽分校、そして愛知大学—」	
	学会名	発行年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『海外からの引揚をめぐる問題とその位相—東亜同文書院から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合—』	2016年2月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
22	加島大輔	東亜同文書院大学教員と愛知大学教員の人事的側面における接合性	
	学会名	発行年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『海外からの大学引き揚げをめぐる問題とその位相—東亜同文書院から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合—』	2016年2月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
23	小川 悟	旧制愛知大学への転入予科生は404人	
	学会名	発行年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『海外からの大学引き揚げをめぐる問題とその位相—東亜同文書院から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合—』	2016年2月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
24	石田卓生	東亜同文書院の文章語教育について	
	学会名	発行年月	開催地
	日本現代中国学会東海部会第6回研究集会	2016年2月	愛知大学車道校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	発表者名	発表標題	
25	馬場 毅	大アジア主義から「脱亜入米」へ	
学会名		発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文書院と東亜同文会』		2015年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
26	堀田 幸裕	東亜同文書院の「復活」問題と霞山会	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文書院と東亜同文会』		2015年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
27	武井 義和	山田純三郎の孫文支援について～財政的支援活動と間関係を中心に～	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文書院と東亜同文会』		2015年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
28	李長莉	宮崎滔天与孫中山広州非常政府对日外交－以何天炯致宮崎滔天信函为中心	
学会名		発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文書院と東亜同文会』		2015年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
29	野口 武	明治中期の貿易活動における日清貿易研究所の位置	
学会名		発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文書院と東亜同文会』		2015年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
30	Laura L. Kusaka, Robert Gee, & Natasha Hashimoto	'Other' Realities in ELT	
学会名		発行年月	開催地
JALT 2015		2015年11月	静岡市

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	発表者名	発表標題	
31	石田卓生	日清貿易研究所の教育について:高橋正二手記を手がかりに	
学会名		発行年月	開催地
日本現代中国学会第65回全国学術大会		2015年10月	同志社大学

No.	発表者名	発表標題	
32	馬場 毅	有関東京同文書院	
学会名		発表年月	開催地
中国社会科学院近代史研究所・河北大学共催『“華北城郷と近代区域社会”暨第六届中国近代社会史国際学術研究討会』		2015年9月	中国・保定

No.	発表者名	発表標題	
33	白梅紅	蔡元培と上原専禄の大学論の比較研究	
学会名		発表年月	開催地
日本教育史学会第59回大会		2015年9月	宮城教育大学

No.	発表者名	発表標題	
34	野口 武	日清貿易研究所にとっての「実業」——出身者における日清・日露戦争の移動をふまえて——	
学会名		発表年月	開催地
日本現代中国学会東海部会第5回研究集会		2015年7月11日	愛知大学車道校舎

No.	発表者名	発表標題	
35	長谷川怜	東京都公文書館の活動と所蔵史料	
学会名		発行年月	開催地
学習院大学史学会		2015年6月	学習院大学

No.	発表者名	発表標題	
36	藤田佳久	東亜同文書院と書院生による東アジア大調査旅行	
学会名		発行年月	開催地
岐阜地理学会(兼招待講演)		2015年5月	中部学院大学(岐阜県)

No.	発表者名	発表標題	
37	三好 章	村松祐次の中国論—『中国経済の社会態制』について	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学国際問題研究所・東呉大学人文社会学院・カリフォルニア大学サンディエゴ校文学系主催国際シンポジウム『「戦後」の意味 アジアにおける1945年とその後』		2015年4月	愛知大学車道校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	発表者	発表表題	
38	高木秀和	現地調査と「大旅行」記録から中国にアプローチするー 愛知大学国際中国学研究センターと東亜同文書院大 学記念センターの取り組みを事例にー	
学会名		発行年月	開催地
日本地理学会春季学術大会 中国地域研究グループ 研究集会		2015年3月	日本大学

No.	発表者名	発表表題	
39	堀田 幸裕	東亜同文会から霞山会へ	
研究会名		開催年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催ワーク ショップ『東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検 討』		2015年1月	愛知大学車道校舎

No.	発表者名	発表表題	
40	武井 義和	東亜同文書院中華学生部と日本～学生たちの日本見 学旅行を中心に～	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催ワーク ショップ『東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検 討』		2015年1月	愛知大学車道校舎

No.	発表者名	発表表題	
41	野口 武	日清貿易研究所」研究の成果と課題——東亜同文書 院前史としての位置付けと荒尾精の評価について	
学会名		発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催ワーク ショップ『東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検 討』		2015年1月17日	愛知大学車道校舎

No.	発表者名	発表表題	
42	石井知章	根岸侑と中国ギルドの研究	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シ ンポジウム『東亜同文書院の中国研究—その現代的 意味』		2014年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表表題	
43	Douglas R, Raynolds	Toa Dobun Shoin and Its China Study Curriculum : Thinking Outside the Box	
学会名		発行年月	開催地

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『東亜同文書院の中国研究—その現代的意味』	2014年12月	愛知大学豊橋校舎
---	----------	----------

No.	発表者名	発表標題	
44	仁木賢司	東亜同文書院との私的出会いについて—北米に於ける極東アジアとその資料	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『東亜同文書院の中国研究—その現代的意味』		2014年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者名	発表標題	
45	湯原健一	語学学習者の受け皿としての満洲	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『東亜同文書院の中国研究—その現代的意味』		2014年12月	愛知大学豊橋校舎

No.	発表者	発表表題	
46	高木秀和	内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造—1920年代と現在の比較—	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催シンポジウム『書院生、アジアを行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして』		2014年11月	愛知大学車道校舎

No.	発表者	発表表題	
47	増田喜代三	清末民初の雲南事情と滇越鉄道について：東亜同文書院第8期生米内山庸夫に着目して	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催シンポジウム『書院生、アジアを行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして』		2014年11月	愛知大学車道校舎

No.	発表者名	発表標題	
48	藤田佳久	地表のマングラを追って—フィールドワークとともに—	
学会名		発行年月	開催地
東海地理研究会(兼招待講演)		2014年1月	ホテル・ルブラ王山

No.	発表者名	発表標題	
49	佃 隆一郎	国民党内戦と日本陸軍・山田純三郎—満州事変前の	

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

	—様相—	
学会名	発行年月	開催地
中国現代史研究会東海地区例会	2014年1月	愛知県名古屋市

No.	発表者	発表表題
50	増田喜代三	大旅行ルートでのGoogle Earthによるトレース: 第12期生の「雲南班」の調査旅行コースから
	学会名	発行年月
	発行年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』	2013年12月
		愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表表題
51	藤田 佳久	東亜同文書院生の大調査旅行の展開と記録された中国像
	学会名	発行年月
	発行年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』	2013年12月
		愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表表題
52	馬場 毅	東亜同文会のアジア主義の変遷
	学会名	発表年月
	発表年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』	2013年12月
		愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表表題
53	松岡 正子	大旅行調査から見た四川辺疆
	学会名	発表年月
	発表年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』	2013年12月
		愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表表題
54	劉 柏林	書院生が見た中国—五四運動後の対日反応を中心に—
	学会名	発表年月
	発表年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』	2013年12月
		愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表表題
55	加納 寛	大旅行調査から見る東南アジアと日本
	学会名	発行年月
	発行年月	開催地
	愛知大学東亜同文書院大学記念センター国際シンポ	2013年12月
		愛知大学名古屋校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

ジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		
-----------------------	--	--

No.	発表者名	発表標題	
56	武井 義和	日清貿易研究所について	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		2013年12月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
57	暁 敏	書院生の内モンゴル中西部の社会経済調査を中心に	
学会名		発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		2013年12月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
58	高木 秀和	大旅行駐在班の調査成果からみた明治期における昆布生産・輸出状況—山田良政の進路にも着目して—	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		2013年12月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
59	栗田 尚弥	日本と『興亜』の間	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		2013年12月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
60	許 雪姫	東亜同文書院の台湾人学生とその戦後の白色テロ経験	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		2013年12月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
61	堀田 幸裕	東亜同文会の対朝鮮事業	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター主催国際シンポジウム『近代日中関係史の中の東亜同文書院』		2013年12月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
62	武井 義和	孫文支援者・山田純三郎の孫文死後の意識と行動	

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

学会名	発行年月	開催地
国立国父記念館・台湾中山學術文化基金会・中国大陸広東孫中山基金会・上海中山学社共催『紀念孫中山華人文化与当代社会発展』国際學術討論会』	2013年11月	台湾・国立国父記念館

No.	発表者名	発表標題
63	馬場 毅	有関東京同文書院
学会名	発表年月	開催地
大阪大学・南開大学・東華大学共催第6届現代中国社会變動与東亜新格局国際學術討論会	2013年8月	台湾花蓮

No.	発表者名	発表標題
64	馬場 毅	東亜同文会与辛亥革命
学会名	発表年月	開催地
中国社会科学院近代史研究所・湖北大学主催・首都師範大学共催第5届中国近代社会史国際學術研討会『社会文化with近代中国社会轉型』	2013年8月	中国 襄陽

No.	発表者名	発表標題
65	馬場 毅	孫文の大アジア主義
学会名	発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター・東吳大学・国父記念館共催国際シンポジウム『孫文と東アジアの平和』	2013年7月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題
66	武井 義和	戦前上海に設置された日本の高等教育機関・東亜同文書院について
学会名	発行年月	開催地
大東文化大学国際比較政治研究所研究会	2012年12月	大東文化大学

No.	発表者名	発表標題
67	武井 義和	東亜同文書院中華学生部の日本見学旅行について
学会名	発行年月	開催地
アジア教育学会第7回大会	2012年11月	名古屋市立大学

No.	発表者名	発表標題
68	馮 天瑜	東亜同文書院の中国踏査について
学会名	発行年月	開催地
東亜同文書院大学記念センター第1回研究会	2012年11月	愛知大学名古屋校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

No.	発表者名	発表標題	
69	馬場 毅	東京同文書院について	
学会名		発表年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター・台湾中央研究院台湾史研究所共催国際シンポジウム『近代台湾の経済社会変遷—日本とのかかわりをめぐって—』		2012年8月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
70	武井 義和	東亜同文書院で学んだ台湾人学生について	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター・台湾中央研究院台湾史研究所共催国際シンポジウム『近代台湾の経済社会変遷—日本とのかかわりをめぐって—』		2012年8月	愛知大学名古屋校舎

No.	発表者名	発表標題	
71	佃 隆一郎	台北帝国大学から愛知大学へ	
学会名		発行年月	開催地
愛知大学東亜同文書院大学記念センター・台湾中央研究院台湾史研究所共催国際シンポジウム『近代台湾の経済社会変遷—日本とのかかわりをめぐって—』		2012年8月4日	愛知大学名古屋校舎

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

- *国際シンポジウム「東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う」、愛知大学豊橋校舎、2017年1月21日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000132.html>)
- *ワークショップ「近代日中仏教交流史からみる東亜同文書院・愛知大学—書院で学んだ藤井静宣(草宣)と、愛知大学に関わった藤井宣丸—」、愛知大学豊橋校舎、2016年11月12日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000130.html>)
- *国際ワークショップ「近代中国社会と日中関係」、愛知大学名古屋校舎、2016年9月9・10日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000126.html>)
- *シンポジウム「海外からの大学引き揚げをめぐる問題とその位相—東亜同文書院大学から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合性—」、愛知大学豊橋校舎、2016年2月21日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000118.html>)
- *国際シンポジウム「近代日中関係史の中のアジア主義—東亜同文書院と東亜同文会」愛知大学豊橋校舎、2015年12月6日 (URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000116.html>)
- *ワークショップ「東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検討」、愛知大学車道校舎、2015年1月17日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000097.html>)
- *シンポジウム「書院生アジアを行く! : 東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」車道校舎、2014年11月30日 (URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000095.html>)
- *国際シンポジウム「東亜同文書院の中国研究—その現代的意味」、愛知大学豊橋校舎、2014年12月13日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000096.html>)

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

- *国際シンポジウム「近代日中関係史の中の東亜同文書院」、愛知大学名古屋校舎、2013年12月14・15日
(URL:<http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info02/Com1000065.html>)
- ・2012年度第1回研究会「東亜同文書院の中国踏査について」、愛知大学名古屋校舎、2012年11月2日
(URL:<http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info02/Com1000046.html>)
- *国際シンポジウム「孫文と東アジアの平和」、愛知大学名古屋校舎、2013年7月8日
(URL:<http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000047.html>)
- ・ワークショップ「浄圓寺・鳥居観音史料から見る近代日中関係」、愛知大学名古屋校舎、2013年2月21日
(URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000053.html>)
- *国際シンポジウム「近代台湾の経済社会変遷―日本とのかかわりをめぐって―」、愛知大学名古屋校舎、2012年8月4・5日 (URL: <http://www.aichi-u.ac.jp/orc/info01/Com0000059.html>)
- ・紀要『同文書院記念報』ISSN登録、2014年7月24日
(URL:<http://www.aichi-u.ac.jp/aichi-orcadmin/TestSite/info01/Com0000092.html>)

14 その他の研究成果等

●展示会・講演会

- *「愛知大学公館100年物語」、愛知大学公館、2016年10月8日～10日
- *名古屋展示会「東亜同文書院の45年 愛知大学の70年」、名古屋市博物館、2016年8月24日～28日
- *松本展示会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、松本市美術館(松本市)、2015年10月1日～4日
上記展示会に先立ち「先行パネル展」を開催、あがたの森文化会館(旧松本高等学校)、9月9日～30日
- *広島展示会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、広島県立美術館(広島市)、2014年10月21～26日
- *岐阜展示会「愛知大学と東亜同文書院大学」、岐阜じゅうろくプラザ(岐阜市)、2014年5月
- *長崎展示会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、長崎県立美術館(長崎市)、2013年10月
- *沖縄展示会「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、沖縄産業支援センター(那覇市)、2013年2月

●特別展

- *『「愛知大学公館100年物語」出版記念講演会』、(株)精文館書店豊橋本店、2015年6月18日
- *愛知大学公館 特別展「愛知大学公館特別展―築後100年の洋風建築をめぐって―」、愛知大学豊橋校舎大学記念館、2012年6月2日～7月28日

●講演会

荒武 達郎

- ・シンポジウム「100年前のアジア旅行 ～東亜同文書院「大旅行」と近代日本青年～」

報告タイトル「20世紀前半大陸進出のパイオニア:娘子軍と密売人」、愛知大学名古屋校舎、2017年2月
長谷川 怜

- ・「むかしの千代田―明治・大正を旅する」東京都文化財ウィーク 2016年10月

三好 章

- *「東亜同文書院から愛知大学へ～小岩井浄と本間喜一～」(愛知大学東亜同文書院大学記念センター松本展示会・講演会「東亜同文書院大学から愛知大学へ 松本が生んだ小岩井浄～書院教授から愛知大学長へ」)、2015年10月

- *「東亜同文書院の中国研究―根岸侏を例に」(東亜同文書院大学記念センター広島展示会・講演会(広島県立美術館))、2015年10月

- *「愛知大学から見る東亜同文書院」、岐阜じゅうろくプラザ(岐阜市)、2014年5月

加島 大輔

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

- ・「教育県山形の系譜－日本をリードした教育者、そして本間家」、愛知大学・山形県川西町主催 本間喜一先生を顕彰する講演会、川西町農村環境改善センター、2015年7月26日

藤田 佳久

- ・「東亜同文書院と大調査旅行から書院生が描いた東アジア・中国像」、大阪産業大学、2016年6月(招待講演)
- ・「本間先生による愛知大学誕生の軌跡－如何に迅速に愛知大学を創設したか」、山形県川西町、2016年7月
- *「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、名古屋市博物館、2016年8月
- *「愛大公館を知る－100年の歴史－」、愛知大学豊橋校舎、2016年10月
- ・「荒尾精と愛知大学－荒尾精没後120年記念－」、全生庵(東京)、2016年10月
- ・「東亜同文書院から愛知大学へ－本間、小岩井両学長の役割にも言及して－」、愛知大学車道校舎、2015年4月
- *「軍都豊橋と旧陸軍師団長官舎」、精文館書店(豊橋市)、2015年6月
- *「東亜同文書院大学記念センターコレクション－書院生による中国大調査旅行と孫文を中心に－」、岐阜じゅうろくプラザ(岐阜県岐阜市)、2014年5月
- *「東亜同文書院生による中国大調査旅行と近代中国像」、長崎県立美術館(長崎市)、2013年11月
- ・「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、東三河・地歴公民科教育研究会(愛知大学豊橋校舎)、2012年11月

馬場 毅

- *「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、長崎県立美術館(長崎市)、2013年11月
- *「東亜同文書院大学から愛知大学へ」、沖縄産業支援センター(那覇市)、2013年2月

武井 義和

- *「愛知大学ヒストリーと文化財」、岐阜じゅうろくプラザ(岐阜市)、2014年5月
- *「愛知大学における孫文」、沖縄産業支援センター(那覇市)、2013年2月

●研究会

武井 義和

- ・2014年度基盤研究C(一般)研究会 第1回中間報告会、2015年7月12日、神奈川公会堂
「大村欣一東亜同文書院教授の中国認識」の題で、5名の報告者の一人として発表。
- ・2014年度基盤研究C(一般)研究会 第2回中間報告会、2016年4月2日、大東文化会館
「大村欣一東亜同文書院教授の中国認識」の題で、5名の報告者の一人として発表。
- ・2014年度基盤研究C(一般)研究会 第2回中間報告会3日目、2016年5月15日、大東文化会館
「大村欣一東亜同文書院教授の対外的な評価について～『支那政治地理誌』を対象として」の題で、3名の報告者の一人として発表。
- ・2014年度基盤研究C(一般)研究会 第3回中間報告会、2016年9月3日、大東文化会館
「大村欣一東亜同文書院教授の中国認識」の題で、5名の報告者の一人として発表。
- ・2014年度基盤研究C(一般)研究会 最終報告会、2016年12月18日、大東文化大学板橋校舎
事前に研究メンバーに提出した論文の仮原稿に対して寄せられたコメントについて、「コメントに対する回答」の題で、10名の報告者の一人として発表。

塩山 正純

- ・言語から見た大旅行：書院生のことばへのまなざし
愛知大学国際コミュニケーション学会シンポジウム「100年前のアジア旅行～東亜同文書院「大旅行」と近代日本青年～」2017年2月11日、愛知大学名古屋校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

- ・南方における近代日本青年の足跡・研究 東亜同文書院『大旅行誌』の記述にみる香港・台湾・南方
2017年2月25日、愛知大学人文社会学研究所プロジェクト・研究会公開報告会(愛知大学豊橋校舎)
高木 秀和
- ・内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造－1920年代と現在の比較－(承前)
東亜同文書院大学記念センター「大旅行」研究会 2015年12月、愛知大学豊橋校舎
須川 妙子
- ・愛知大学東亜同文書院大学研究センター・大旅行誌研究会 2015年12月、愛知大学豊橋校舎
報告タイトル「雲南ルートにおける食の記載からみた書院生の心情」
- ・シンポジウム「100年前のアジア旅行: 東亜同文書院「大旅行」と近代日本青年」・愛知大学国際コミュニケーション学会、2017年2月、愛知大学名古屋校舎、報告タイトル「食から見た大旅行」
ローラ・リー・クサカ
- ・愛知大学人文社会学研究所プロジェクト・研究会合同報告会、Laura L. Kusaka, Daniel Devolin, Simon Sanada, “Developing ‘Contemporary International English’ Course at Aichi University.” 2017年2月25日、愛知大学豊橋校舎
- ・浜松 JALT 定例会、Laura L. Kusaka, “Hidden Stories about Race in Japan: Confronting Native-Speakerism and Nihonjinron in University English Education” 2017年2月、浜松
- ・Aichi University Culture and Language Symposium, Laura L. Kusaka, “Acknowledging Student Diversity in Japanese University English Classrooms: Getting Beyond Globalization Rhetoric” 2017年1月、愛知大学名古屋校舎
- ・人文社会学研究プロジェクト報告会、Laura L. Kusaka, Daniel Devolin, & Simon Sanada, “ELF8 and CIE: Interim Report of CIE Research Group” 2015年10月、愛知大学豊橋校舎
- 石井 知章
- ・第21回政治思想学会研究大会、2014年5月24日、関西大学
(報告)「東亜協同体論におけるマルクス主義の思想的位置」
- 長谷川 怜
- ・「満洲経営をいかに宣伝するか ― 満蒙資源館の設置と満蒙学術調査団 ―」
2016年3月、東アジア近代史学会例会
- ・「満洲経営論の萌芽―日露戦争期を中心に」 2015年5月、東アジア近代史学会例会
- 藤田 佳久
- ・東亜同文書院生の大調査旅行における辺境地域調査、2015年12月、愛知大学豊橋校舎
- 石田 卓生
- ・「静宣(草宣)の学んだ東亜同文書院: 中国語を中心に」、愛知大学東亜同文書院大学記念センター、愛知大学国際問題研究所、東アジア仏教交流史研究会共催『近代中国社会と日中関係』、2016年11月
- ・「戦前日本の中国語教育の変遷: 東亜同文書院を事例として」、愛知大学東亜同文書院大学記念センター、愛知大学国際問題研究所中華人民共和国近代史研究所共済『近代中国社会と日中関係』、2016年9月
- 馮 天瑜
- ・「東亜同文書院の中国踏査について」、東亜同文書院大学記念センター第1回研究会、2012年11月、愛知大学名古屋校舎
- 佃 隆一郎
- ・「浄圓寺史料のデジタル化」、愛知大学国際問題研究所・愛知大学東亜同文書院大学記念センター共催ワークショップ『浄圓寺・鳥居観音史料からみる近代日中関係』、2013年2月、愛知大学名古屋校舎

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

暁 敏

- ・「浄圓寺史料のデジタル化」、愛知大学国際問題研究所・愛知大学東亜同文書院大学記念センター共催ワークショップ『浄圓寺・鳥居観音史料からみる近代日中関係』、2013年2月、愛知大学名古屋校舎

●執筆分担

武井 義和

- ・「第 1 章第 5 節 愛知大学への払い下げ後の師団長官舎」、『豊橋市指定有形文化財愛知大学公館（旧陸軍第十五師団長官舎）建築調査報告書』、16-19、豊橋市教育委員会、2015年7月
- ・コラム「朝鮮人コミュニティ」、87-88、『戦時上海グレーズーン』、勉誠出版、2017年2月

ローラ・リー・クサカ

- ・Report for “International English” Education Research Group, The Institute for Research in Humanities and Social Sciences, Aichi University, 2015-2016. Daniel Devolin, Laura Kusaka, and Simon Sanada, March 31, 2017 愛知大学人文社会学研究所「国際英語教育研究グループ報告書」

石井 知章

- ・「現代中国社会とリベラリズムのゆくえ」、『中国リベラリズムの政治空間』(勉誠出版、2015年)347-351頁

長谷川 怜

- ・「プロパガンダとしての満洲観光旅行」、辻田真佐憲監修『満洲帝国ビジュアル大全』(洋泉社、2017年)

佃 隆一郎・岡田洋司

- ・『愛知県史』通史編 7 近代 2、76-96、2017年3月

石田 卓生

- ・「古丁」、287-288、「大内隆雄」、246-247、『二〇世紀満洲歴史事典』、2012年12月

●史料復刻

石田 卓生

- ・「東亜同文会『東亜週報』第3号」、81-102、『中国東北文化研究の広場』第3号、2012年8月

●翻訳

石井 知章

- ・徐友漁著、石井知章訳「九〇年代の社会思想」『現代中国のリベラリズム思潮——一九二〇年代から二〇一五年まで』(藤原書店、2015年)

佃 隆一郎

- ・李長莉「宮崎滔天と孫文の広州非常政府における対日外交—何天炯より宮崎滔天への書簡を中心に」、81-98、馬場毅編、『近代日中関係史の中のアジア主義 東亜同文会・東亜同文書院を中心に』、あるむ、2017年3月

石田 卓生

- ・王新宇「大内隆雄和东亚同文书院」、『「満洲国」文学大系』、北方文艺出版、2014年
- ・馮仕政「転換期における中国社会の階級分化と階級アイデンティティ」、79-100、『中国21』第40号、東方書店、2014年3月

武井 義和

- ・李衣雲「日本統治期視覚式消費と展示概念の出現」、249-275、『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって』、東方書店、2013年11月

佃 隆一郎

- ・趙建民「中国勃興後の東アジアへの外交行為」、95-118、

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

『民主と兩岸関係についての東アジアの観点』東方書店、2014年3月

- ・謝国興「戦後初期において台湾中小企業が植民地時代から継承したもの」、307-331、
『近代台湾の経済社会の変遷—日本とのかかわりをめぐって』、東方書店、2013年11月

●解説・資料紹介

武井 義和

- ・「記念センター所蔵寄贈資料目録⑪」、71-74、『同文書院記念報』vol.25、2017年3月
- ・「記念センター所蔵寄贈資料目録⑩」、194-198、『同文書院記念報』vol.24、2016年3月
- ・「孫文支援者・山田純三郎が残した写真資料の紹介—孫文や革命家たちから贈られた写真を中心として—」、174-190、『同文書院記念報』vol.24、2016年3月
- ・「記念センター所蔵寄贈資料目録⑨」、115-122、『同文書院記念報』vol.23、2015年3月

長谷川 怜

- ・書評と紹介 内山一幸『明治期の旧藩主家と社会：華士族と地方の近代化』
日本歴史 (822)2016年10月
- ・史料紹介：稲垣長賢「貴族院代表鮮満皇軍慰問団」日記
学習院史学 (54号) 2016年3月
- ・研究ノート レコード原盤の音声復元 東京市作成紀元2600年記念レコード
東京都公文書館 調査研究年報<WEB版> (第2号)2016年3月
- ・水野梅暁・藤井草宣関係史料の調査と保存

広中一成・長谷川怜

- ・愛知大学国際問題研究所紀要 (146)2015年11月
- ・活動報告 東京都公文書館 企画展示「子どもの見た戦争 手紙が語る学童疎開」

長谷川 怜

- ・東京都公文書館 調査研究年報<WEB版> (第1号)2015年3月

西澤 直子

- ・「福沢諭吉関係新資料紹介」、慶應義塾福澤研究センター『近代日本研究』Vol.29 (2012)p.383- 394
- ・「福沢諭吉関係新資料紹介」慶應義塾福澤研究センター『近代日本研究』Vol.30 (2013) p.197- 213

佃 隆一郎

- ・「愛知大学創設期座談会記録」、149-174、『同文書院記念報』vol.23、2015年3月

石田 卓生

- ・『愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵写真資料目録・サンプル』、愛知大学東亜同文書院大学記念センター、2017年3月
- ・『愛知大学東亜同文書院大学記念センター所蔵資料目録』、愛知大学東亜同文書院記念センター、2016年3月
- ・「中山優写真資料について」、『同文書院記念報』第23号、2015年3月 123-147、藤田 佳久(共)
- ・「東亜同文書院関係の史資料収集とコレクション紹介」、広島県立美術館、2014年10月

馬場 毅

- ・「孫文を支援した日本人・山田兄弟」、58-59、『歴史地理教育』、2012年11月

藤田 佳久

- ・『東亜同文会報告』解説、395-419、『東亜同文会報告』第26巻、2012年10月

武井 義和

- ・「記念センター所蔵寄贈資料目録⑧」、140-147、『同文書院記念報』vol.22、2014年3月
- ・「記念センター所蔵寄贈資料目録⑦」、142-147、『同文書院記念報』vol.21、2013年3月

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

佃 隆一郎

- ・『愛知大学通信』掲載教職員座談会「私の追憶 愛知大学の回顧と展望」、148-155、
『同文書院記念報』vol.22、2014年3月

●ラジオ放送

藤田 佳久

- ・「東亜同文書院から愛知大学への群像」、CBCラジオ(愛知)、2013年10月
- ・「東亜同文書院から愛知大学へのご招待」、FMタイフーン(沖繩)、2013年2月
- ・「東亜同文書院の群像」、東海ラジオ(愛知)、2012年4月
- ・「愛知大学70年の歴史をたどる(その1)」東海ラジオ 2016年4月
- ・「愛知大学70年の歴史をたどる(その2)」東海ラジオ 2016年4月
- ・「東亜同文書院生の大旅行(その1)」東海ラジオ 2016年7月
- ・「東亜同文書院生の大旅行(その2)」東海ラジオ 2016年7月

武井 義和

- ・東海ラジオ「チャイナ・なう」出演
 - 取材場所 (東海ラジオスタジオ) ■ 収録日 2015年3月31日
 - 放送日 2015年4月19日、4月26日
 「愛知大学東亜同文書院大学記念センターの存在とその役割」(4月19日放送)、「東亜同文書院大学の研究」(4月26日放送)の題で、それぞれ記念センター展示資料の紹介、および記念センターで取り組んでいる東亜同文書院や山田純三郎の研究を分かりやすく紹介。
- ・東海ラジオ「愛大スピリッツ」出演
 - 取材場所 (東亜同文書院大学記念センター) ■ 収録日 2016年5月11日
 - 放送日 2016年6月4日
 東亜同文書院大学記念センター展示室内において、展示中の孫文関連資料を紹介。

●テレビ放映(取材)

馬場 毅

- ・NHK BS世界のドキュメンタリー「ベトナム独立の夢を日本に賭けた男」番組放映にむけ、NHK国際ナショナルおよびVTV (ベトナム国営テレビ)による取材
 - 取材場所 (東亜同文書院大学記念センター) ■ 取材日 2013年4月11日
 - 放送日 2013年12月20日(再放送2014年9月23日)

●科研費採択実績

武井 義和

- ・2014年度基盤研究C(一般)研究分担者(2016年度まで)
 - 研究代表者 伊藤信哉(松山大学法学部准教授)
 - 研究課題名「近代日本の外交思想 『転換期の国際社会』を知識人たちはどう捉えたのか」

岩田 晋典

- ・「近代日本青年の「南方」体験:中国人コミュニティとの接触の実像」(2015年度、基盤研究(C)、課題番号:15K01896)

白梅紅

- ・《2015年度中国人民大学研究生科学研究基金项目》“日本国立大学法人化改革对学院建设的影响以

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

及对中国的启示”、2014年10月—2015年9月

・内蒙古自治区高等学校科学研究プロジェクト「国際視野からみる中国の民族地区における大学の職業化転制改革」(2015年1月—2018年1月)(プロジェクト番号:NJSY219)

・公益財団法人住友財団「アジア諸国における日本関連研究助成」プロジェクト「日本の障害者福祉制度にみる中国の障害者福祉政策に関する研究」(2015年4月から2016年3月まで)(財団登録番号:148039)

明珠

・内蒙古自治区高等学校科学研究プロジェクト「国際視野からみる中国の民族地区における大学の職業化転制改革」(2015年1月—2018年1月)(プロジェクト番号:NJSY219)

・公益財団法人住友財団「アジア諸国における日本関連研究助成」プロジェクト「日本の障害者福祉制度にみる中国の障害者福祉政策に関する研究」(2015年4月から2016年3月まで)

(財団登録番号:148039)

藤田 佳久

・2014年度一般研究C

「近代中国地域像の基軸と変動—『支那省別全誌』と『新修支那省別全誌』の比較から—」

(研究課題番号:26370934)

石田 卓生

・2014年度一般研究C

「東亜同文書院の中国語教育活動についての実証的研究」(研究課題番号:26370747)

・2012年度奨励研究

「東亜同文書院で使用された中国語教材の研究」(研究課題番号:24903004)

暁 敏

・2012年度研究活動スタート支援

「近代フルンボイル地域のモンゴル人自身による商業経済の自立形成に関する研究」

(研究課題番号:23830092)

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

オープンリサーチセンター事業の継続であるが、研究としての新たな視点を明らかにしているため、その点を発展させることに留意されたい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

オープン・リサーチ・センター事業では愛知大学東亜同文書院大学記念センターが収蔵する史資料類の各地での情報公開を中心とし、それにかかわる研究もすすめた。それをふまえ、本研究プロジェクトでは研究プロジェクトテーマ「東亜同文書院を軸とした近代日中関係史の新たな構築」をめざし、オープン・リサーチ・センター事業の中で課題となった研究テーマを発展設定し、以下のようにテーマへのアプローチを図った。

1. 書院の国外での立地とそこでの現地語での語学教育の徹底や貿易実務者養成のための貿易品調査に始まった大旅行による地域研究の推進など中国人学生も加えたユニークないわば、「書院システム」を明らかにすること、その上でその書院システムが卒業生の活躍や経営母体の東亜同文会のアジア主義的指向性の中で、近代日中関係や東アジアの近代化にどのような役割を果たしたかを研究することとした。
2. そのために5つの研究グループを組織し、グループ相互の連携を図りながら研究プロジェクトテーマへのアプローチを行なう対応を図った。各グループは6人平均からなり、グループの主題を共有しつつ、また体系性も考慮しつつ各自が研究対象をもつ形で進めることにした。その際、各グループの研究は常時進行さ

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

せながら、全体としての年次計画にしたがって国際シンポジウムを開催し、その成果を発表し、最終年にそれを全体として総括するという工程を決定した。

3. ①グループと②グループは先行的に平成25年度に国際シンポジウムを開催し、①グループの「**近代日中関係の再検討**」では、例えば東亜同文書院の姉妹校である東京同文書院が清国関係のみならず、ベトナム青年たちの独立運動の拠点になったこと、書院の経営母体の東亜同文会は、清・民国との文化交流を推進する中でアジア主義思想を形成していくことが確認でき、また、書院生を軸に台湾と書院との関係性が浮かび上がる成果も得た。

②グループの「**大調査旅行からみる近代中国像**」関係の国際シンポジウムでは、大旅行の時期別特徴の全体像の把握に加え、例えば中国周縁部四川の少数民族地帯の文化人類学的記録の評価、内モンゴルでは書生による大調査旅行の年次別経過と調査法の解明、内陸奥地への日本水産物の流通システムの解明などの成果が得られた。

③グループの「**書院の教育と中国研究システム**」は平成26年度国際シンポジウムを行い、東亜同文書院のカリキュラムは、日中間の貿易増進を目的とし、世界で初めて行われた「地域研究」のカリキュラムであり、それが政府の手によってではなく「下から」行われたものであるという指摘、さらにその言語教育は世界最初のビジネス言語教育であったという指摘とか、書院の教員であった根岸侑のギルド研究を中心とした中国社会論の再評価が行われた。

④グループ「**書院から愛知大学への接合性**」は、平成27年度にシンポジウムを行い、東亜同文書院大学と愛知大学開設時の教員を比較し、前者の后者への参加者が全教員のうち一番多かったが、両校の性格は異なり、后者はよりアカデミズム的で、東海地区に密着しているとの指摘、前者から后者へ参加した小岩井浄の左翼運動への参加と「転向」、戦後の引き揚げまでの行動の解明などの成果が得られた。

⑤グループの「**書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業**」は、平成28年度にシンポジウムを行い、東亜同文書院の言語教育は世界初のビジネス言語教育であるとし、それと現在のアメリカのビジネス言語教育の比較、また書院の卒業生が、戦後多くが対外貿易に携わりながら日本の高度経済成長を支えたという指摘などの成果が得られた。

4. 以上のように、新たな視点にもとづき、研究の面で成果を得られた。。

<「中間評価時」に付された留意事項>

1. 研究代表者が退職し、センターの客員研究員になっているについて、予算執行上の責任をとれる立場にあるものかを説明すること。
2. 総勢 30 人を越える大きな研究組織だが、その運営やガバナンスはしっかりと構築されているように思われる。ただし、「東亜同文書院」にテーマを絞った今回の研究事業にしては、やや関連の薄い分野の研究者も混じっていることが気になる。
3. 若干気になるのは、「軍都豊橋の研究」や「バンコクにおける戦前日本の活動」のような 周縁領域の成果が混じっている点で、大所帯の研究組織にありがちな研究領域の拡散に陥らぬよう注意が必要ではないだろうか。
4. 5 つの研究グループが、順調に研究やシンポジウム、展覧会などを実施しており、研究は 順調であるといえる。欲を言えば、書院の活動を批判的に検証するような相対化の視点を取り込みたいところである。
5. 構想調書の段階から、在職研究者による研究中心のプロジェクトになっており、若手・PD 研究者の育成や参画が想定されていないが、そういった点にも今後は目を向けていくことが望まれるのではなかろうか。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

1. について

本プロジェクト申請は、「愛知大学東亜同文書院大学記念センター」という組織が中心となり検討をした。

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

愛知大学東亜同文書院大学記念センターにおける研究・事業等は、「東亜同文書院大学記念センター運営委員会」において審議のうえ決定し実行しており、本申請も同様である。本プロジェクト研究代表者の選出も組織決定のうえ、研究者のなかで中心的人物である馬場毅としたのである。申請当時、同人は東亜同文書院大学記念センター運営委員会を統括し東亜同文書院大学記念センター長であり、プロジェクトをまとめ推進するのに最適人物であると判断されたからである。本プロジェクト研究は、5つの研究グループからなり、各研究グループ長は下記のとおりである。各研究グループ長は、東亜同文書院大学記念センター運営委員会委員であり、上述のとおり運営委員会にて審議のうえ、予算執行をしている。よって、プロジェクトに関しては馬場研究代表者が中心となって運営委員会で議論をするだけでなく5つの研究グループ長のみで協議するなど、プロジェクト推進に努めている。

- | | |
|----------------------------------|--------------|
| ① 近代日中関係の再検討グループ | ／グループ長:馬場 毅 |
| ② 「大旅行調査」からみる近代中国像グループ | ／グループ長:加納 寛 |
| ③ 書院の教育と中国研究システムの研究グループ | ／グループ長:三好 章 |
| ④ 書院から愛知大学への接合性の研究グループ | ／グループ長:加島 大輔 |
| ⑤ 書院および初期愛知大学卒業生の国際的就業に関する研究グループ | ／グループ長:藤田 佳久 |

藤田佳久⑤研究グループ長は、元東亜同文書院大学記念センター長を歴任し、本学定年退職後は名誉教授・東亜同文書院大学記念センターフェローである。馬場毅①研究グループ長も前東亜同文書院大学記念センター長を歴任し、本学定年退職後は名誉教授・東亜同文書院大学記念センター客員研究員である。

本プロジェクトは、定年退職後の両名を加えた会議体で審議決定のうえで予算執行をしているばかりか、馬場毅研究代表者が各研究グループ長をリードするリーダーシップによって研究推進を続けており、大学内において予算執行上特に問題はない。なお、「中間評価に伴う研究進捗状況報告書」提出後、馬場研究代表者のもとに

- ワークショップ「東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検討」
- 国際シンポジウム「東亜同文書院の中国研究－その現代的意味」
- シンポジウム「書院生、アジアを行く！：東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」（以上平成26年度）
- 国際シンポジウム「近代日中関係史の中のアジア主義－東亜同文書院と東亜同文会－」
- シンポジウム「海外からの大学引き揚げをめぐる問題とその位相－東亜同文書院大学から愛知大学への人事的接合性と自国文化への接合－」（以上平成27年度）
- 国際ワークショップ「近代中国社会と日中関係」
- 国際シンポジウム「東亜同文書院卒業生たちの軌跡を追う」（以上平成28年度）

を開催し、研究成果の公開発表と研究者間の交流研究を進めた。

なお今後、プロジェクト申請にあたり、プロジェクト期間内に定年を迎える者を責任者にすることのないように留意したい。

2.3.4. について

本プロジェクトは、「東亜同文書院を軸とした日中関係史の新たな構築」をテーマとしており、その中には東亜同文書院が行った諸調査・諸研究の再検討が含まれる。周知のように、東亜同文書院の行った「大調査旅行」および各地の調査は、中国一国に限定されるものではなく、東南アジアもその範囲に含まれる。従って「バンコクにおける戦前日本の活動」は、決して周縁領域ではなく本筋に含まれる。同様に、「軍都豊橋の研究」は東亜同文書院などの受け皿となった本学愛知大学が当初おかれたのは豊橋であり、そこにあった第15師団司令部跡地である。よって、研究グループ④「書院から愛知大学への接合性の研究」における愛知大学との接続という点から考えると、校地が取得できた背景を探ることは重要である。本学学長の住

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

居ともなった「愛知大学公館」は元師団長官舎であり、これに関する小冊子『愛知大学公館 100 年物語 : 旧陸軍第 15 師団長官舎から「知のサロン」へ』を平成 27 年 3 月に刊行した。また、本プロジェクトは東亜同文書院そのものを顕彰することが目的であるのではなく、実態を検証してその現代的意義を探ることを課題としている。このため、書院の活動に関しても平成 26 年 12 月に開催された国際シンポジウム「東亜同文書院の中国研究—その現代的意義」では、ジョージア州立大学のダグラス＝レイノルズ教授、明治大学の石井知章教授等を招き、外部の目から見た書院の研究再検討を行った。加えて、平成 27 年 1 月に実施されたワークショップ「東亜同文会、東亜同文書院と日中関係の再検討」でも、コメンテーターをつとめた神奈川大学の大里浩秋教授等から同じように批判と検証の視点からの発言があった。また①グループ「近代日中関係の再検討」は、東亜同文会・東亜同文書院を典型的なアジア主義団体と位置付け、それが戦中の「大東亜共栄圏」に帰着した事も踏まえてアジア主義の歴史的変容、その功罪を含め、「中間評価に伴う研究進捗状況報告書」提出後、国際シンポジウム「近代日中関係史の中のアジア主義—東亜同文書院と東亜同文会—」を行いかつそれらの成果をもとに増補して同名の論文集として公刊した。このように本プロジェクト外進行に関しては、常に批判的視点を意識し、単なる顕彰に陥らない、相対化の視角を保持している。

5. について

平成 26 年 5 月より採用したポストドクターは、ワークショップ(平成 27 年 1 月 17 日開催)において半年間の研究成果を発表した。また、シンポジウム「書院生、アジアに行く! : 東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」(平成 26 年 11 月 30 日開催)にて若手研究者 2 名が発表した。

- ワークショップ「東亜同文会・東亜同文書院と日中関係の再検討」

PD・野口 武

- ・「日清貿易研究所」研究の成果と課題-東亜同文書院前史としての位置付けと荒尾精の評価について

- シンポジウム「書院生、アジアに行く! : 東亜同文書院・大旅行調査研究の新たな地平をめざして」

大学院文学研究科大学院生 高木 秀和

- ・内蒙古自治区赤峰市街地の都市構造—1920 年代と現在の比較—

大学院中国研究科大学院生 増田 喜代三

- ・清末民初の雲南事情と滇越鉄道について : 東亜同文書院第八期生(1908 年)米内山庸夫に着目して

平成 27 年 10 月更に 1 名のポストドクターを採用したが、翌年 7 月個人的事情により退任した。PD、ならびに若手研究者は「中間評価に伴う研究進捗状況報告書」提出後も引き続いて、シンポジウム等で発表した。

- 国際シンポジウム「近代日中関係史の中のアジア主義—東亜同文書院と東亜同文会—」(平成 27 年 12 月 6 日開催)

PD・野口 武

- ・明治中期の貿易活動における日清貿易研究所の位置

- 国際ワークショップ「近代中国社会と日中関係」(平成 28 年 9 月 9 日開催)

PD・野口 武

- ・初期東亜同文書院と史料的記憶

大学院文学研究科大学院生 高木 秀和

- ・近代中国における海産物供給構造の変容: 昆布・鰯を中心に

以上のように、プロジェクトを推進するにあたり、若手研究者の育成および参画を行った。

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

17 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成24年度	施設	24,780	14,228	10,552				
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	7,816	4,822	2,994				
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	14,985	11,314	3,671				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	17,912	13,745	4,167				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	14,363	11,401	2,962				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	18,740	16,202	2,538				
総額	施設	24,780	14,228	10,552	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	73,816	57,484	16,332	0	0	0	0
総計	98,596	71,712	26,884	0	0	0	0	

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

- 18 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）
《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
大学記念館(東亜同 文書院大学記念セン ター)	H24	1848㎡			10,290	5,145	私立大学 戦略的研 究基盤形 成支援事 業
記念会館	H24	48㎡			14,490	5,407	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

㎡

- 《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
ソニーデジタルカメラ	H25	NEX-5TY	1	22 h	82		
ソニーデジタルビデオカメラ	H25	HDR-PJ630V	1	25 h	60		
PFUSキャナーScanSnap	H25	SV600	1	80 h	50		
東芝dynabook	H27	PB35RFAD4R7JD71	2	1600 h	180		
(研究設備)							
近衛文磨書 扁額 レプリカ	H26		1	h	362		
史資料レプリカ	H26		1式	h	2,592		
「守撲」・「寿考作人」 額	H27		2	h	194		
アルミショーケース	H27	H-6206-BK	4	h	726		
アルミスタンダードケース	H27	N-615-SL	1	h	83		
(情報処理関係設備)							
				h			

- 19 研究費の支出状況（千円）

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	404	図書・資料、複写	404
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	200	送料	200
印 刷 製 本 費	1,880	紀要印刷費、リーフレット	1,880
旅 費 交 通 費	763	出張旅費	763
賃 借 料	306	展示会・講演会会場等賃借料	306
報 酬 ・ 委 託 料	2,371	業務委託の支払、講師謝礼	2,371
(広 報 費)	202	展示会・講演会の新聞広告料	202
(そ の 他)	82	会議会合費	82
計	6,208		6,208
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	44	国際シンポジウム運営補助	44
教育研究経費支出	0		0
計	44		44
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,332	図書・資料、複写	1,332
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	225	送料	225
印 刷 製 本 費	1,801	紀要、ブックレット	1,801
旅 費 交 通 費	1,482	出張旅費	1,482
賃 借 料	268	展示会・講演会会場等賃借料	268
報 酬 ・ 委 託 料	1,262	業務委託の支払、講師謝礼	1,262
(そ の 他)	1,182	用品費	1,182
計	7,552		7,552
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	29	国際シンポジウム運営補助	29
教育研究経費支出	0		0
計	29		29
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	998	史資料レプリカ	998
図 書	0		0
計	998		998
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	491	図書・資料、複写	491
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	532	送料	532
印 刷 製 本 費	990	紀要	990
旅 費 交 通 費	2,174	出張旅費	2,174
賃 借 料	276	展示会・講演会会場等賃借料	276
報 酬 ・ 委 託 料	2,054	業務委託の支払、講師謝礼	2,054
(そ の 他)	1,477	広告費	1,477
計	7,994		7,994
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	2,461	史資料レプリカ	2,461
図 書	0		0
計	2,461		2,461
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

法人番号	231002
プロジェクト番号	S1201018

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	820	図書・資料、複写	820
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	217	送料	217
印 刷 製 本 費	1,117	紀要	1,117
旅 費 交 通 費	1,516	出張旅費	1,516
賃 借 料	100	展示会・講演会会場等賃借料	100
報 酬 ・ 委 託 料	1,625	業務委託の支払、講師謝礼	1,625
(用 品 費)	992	レプリカ、PC	992
(広 報 費)	673	広告費	673
計	7,060		7,060
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	19	アルバイト	19
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	19		19
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	450	図書・資料、複写	450
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	253	送料	253
印 刷 製 本 費	1,757	紀要	1,757
旅 費 交 通 費	706	出張旅費	706
賃 借 料	63	展示会・講演会会場等賃借料	63
報 酬 ・ 委 託 料	3,327	業務委託の支払、講師謝礼	3,327
(広 報 費)	169	広告費	169
計	6,725		6,725
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	72	アルバイト	72
教 育 研 究 経 費 支 出	0		0
計	72		72
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0